

多賀工業会 東京支部会報

2007年8月 第10号



「アオザイを脱いで」(ベトナム中部海岸ニャチャンにて)

多賀工業会 東京支部

事務局 東京都文京区弥生2-8-6 (〒113-0032)

支部長 近江 義勝方

電話 03-3811-7088 (FAX 共)

***** 2007年 第10号 目次 *****

報 告	第27回東京支部総会開催のご案内	
	講演会の講師と概要紹介	玉川 信二	
	東京支部長挨拶 (第26回総会に当たって)	近江 義勝	
	第26回東京支部総会報告	小宅 仁	
	総会時の講演概要				
	(ライフサイクル・マネジメントへの挑戦)	大泉 雅靖	
	総会出席者名簿及び写真出展者名簿	
	平成18年度東京支部会計報告	
	平成19年度東京支部予算案	
	特 集	東京支部会報第10号！その歩みを振り返って見る	会報創刊号～3号	近江 義勝
		会報4号～6号	鈴木 日出男	
		会報7号～9号	兼子 八郎	
随 筆	「支部の活性化と同窓会員拡大の方策」各支部長アンケートから	三本木 武	
	山形、庄内地方の春一学童期の追憶をもとに	粕谷 宏夫	
	大学雑感	矢嶋 國男	
	支部総会の思い出	菊池 規子	
	北九州懐古旅行	田中 栄太郎	
	定年技術者のボランティア体験記	伊藤 征洋	
	東京支部総会参加の魅力	鳥居塚 卓	
	お知らせ	渡辺前支部長のご逝去を悼む	広瀬 行一
		東京支部ホームページ編集室から	矢野 睦男
		平成18年度会費納入者	編 集 部
		囲碁同好会	新沼 厚生
		ゴルフ同好会	兼子 八郎
		写真同好会	小林 渡
		山遊会	小宅 仁
		快舞会(ダンス同好会)	瀬在 城雄
		編集後記
		多賀工業会東京支部会則		表3

表紙の説明

ベトナム中部海岸(ニャチャン)「アオザイを脱いで」

この作品は私が10年前にベトナムで撮影したものである。ベトナムは戦争までフランスの植民地であったので、今でもフランス文化の香りが強く残っていた。暑い国であるにもかかわらず、若い女性はパリモードの洋服を着て日焼けしないように幅広のつばの帽子をかぶり長い手袋をはめて、颯爽とオートバイを乗り回していた。ベトナムの伝統衣装は中国服に似たアオザイであるが、日本の着物同様着ている女性はごく少なくなっていた。

玉川 信二 (昭28学電)

第27回多賀工業会東京支部総会開催のご案内

1. 日時 平成19年10月13日(土)午後3時から
2. 場所 上野精養軒(右図参照)
東京都台東区上野公園4-58
電話 03-3821-2181(代表)

交通

- : JR上野駅公園口下車徒歩5分
- : 京成線京成上野駅下車徒歩5分
- : 東京メトロ銀座線日比谷線上野駅下車
西郷隆盛像から徒歩5分

3. 会費 10,000円(当日受付にて申し受けます)

4. 講演会 演題 「脳梗塞の実態と
その予防について」
(午後4時～5時まで)

講師 堤 裕 氏

(昭30新潟大学医学部卒)

講師略歴等は下記をご覧ください。

5. 懇親会 (午後5時00分～7時ごろまで)

6. 写真展 総会の会場内に展示します。

(写真部員以外の会員からの出展をお待ちしております)

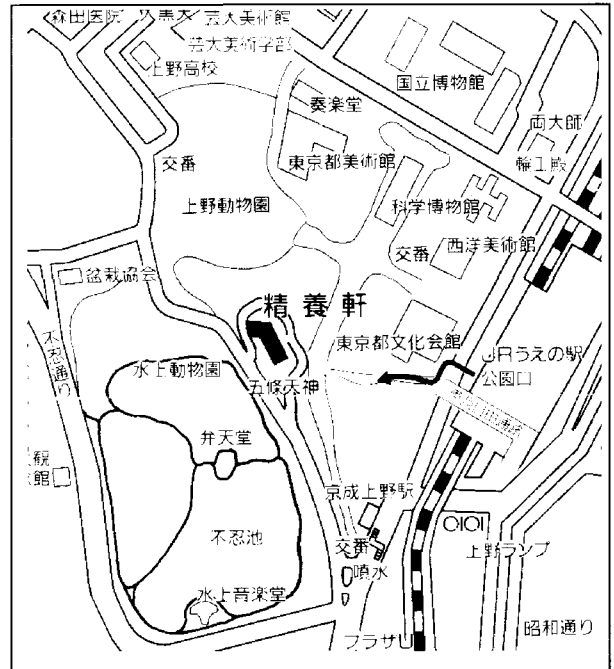
7. お願い 出欠のご返事は9月28日(金)までに同封のハガキにてお願いします。

なお、出欠にかかわらず、お手数でも同封の振込用紙にて、年会費2,000円をお振込みくださるようお願い申し上げます。

8. お問い合わせ先

駒場 方耀 (昭38学機) TEL: 042-665-8387

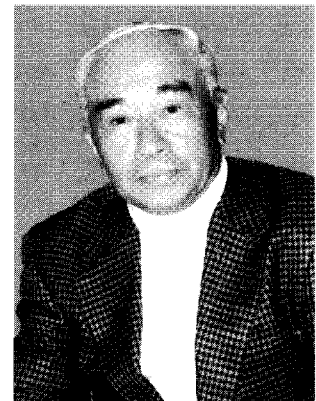
広瀬 行一 (昭38学電) TEL: 0297-78-8737



講演



講師 多摩平成クリニック院長
医学博士
堤 裕 氏



「脳梗塞の実態とその予防について」

ご専門の脳外科の立場から高齢化に向けての健康管理についてお話をお願いしました。

[紹介者: 玉川 信二 (昭28学電)]

講師略歴

- 昭和24年 旧制水戸高等学校1年終了>
(学制改革による)
- 昭和30年 新潟大学医学部 卒業
- 昭和31年 東京大学医学部第一外科入局
- 昭和43年 東京通信病院 脳神経科部長
- 平成8年3月 定年退職
- 平成13年4月 勲3等瑞宝章
- 平成8年9月より18年8月まで
太平洋セメント(株)医事顧問
- 平成19年4月 多摩平成クリニック院長

第 26 回東京支部総会に当たって

支部長 近江 義勝 (昭 28 学機)

本日は本部より寺門龍一(昭 25 専電)多賀工業会々長を始め 8 支部の幹部の方々のご出席頂き、有り難く厚く御礼申し上げます。先ず東京支部の現況を申し述べますと他支部同様に出席者の減少に悩んでおります。支部会員は東京、神奈川地区ではっきりしている分で約 2,400 名です。

H18 年度の会報発送数 1,292 のうち、転居先不明で戻ったものが 44 ありました。このうち約 4% (56 名)の方が今日ここに出席され、13% (169 名)の方から欠席の返事がありました。そして残りの 83% (1,068 名)の方々からは回答がありませんでした。本日の出席者の内訳は工専卒 13 名、学部卒 43 名ですが 39 年以降の方は 15 名です。39 年以降の皆様にもう少し頑張って貰いたいと思います。次に 5 学部同窓会連合会について簡単に経過を申し述べます。5 学部とは多賀工業会、人文学部、理学部、教育学部、農学部の事です。



平成 17 年 12 月に学長より各同窓会長に召集があり、連合会設立要請を受け、先月 30 日(土)に水戸駅前の三の丸ホテルにて設立祝賀パーティーが催されました。東京支部から 5 人出席して欲しいと要望がありましたが、

私と三本木幹事長、上月副幹事長の 3 人が出席しました。私達が一番危惧していますのは、多賀工業会の財産として約 1 億 6 千万円の残金が狙われ流用されるのではないかと云うことです。50 周年記念事業の寄付の際、目標 5,600 万円に対し 2 億 3 千万円の寄付があり、種々出費がありましたが本日現在約 1 億 6 千万円の残があります。

以上簡単ではありますが支部長ご挨拶とし、詳細については寺門会長よりお話頂くことにいたします。本日はどうも有難うございました。

第 26 回東京支部総会報告

小宅 仁 (昭 36 学電)

多賀工業会東京支部第 26 回総会が上野公園の高台に位置し、鹿鳴館時代の華やかな雰囲気を中心に伝える上野精養軒で開催された。出席者は 65 名(内来賓 9 名)であった。

本総会は国立大学独立法人への移行後の諸活動のあるべき姿に、会員の注目が集まっている中での開催となった。

開会の挨拶に続き、近江支部長(昭 28 学電)の支部長挨拶(このページ上段)があり、引き続き祝辞を述べられる多賀工業会本部の寺門龍一(昭 25 専電)に、全体の流れのご説明を依頼すると共に、多賀工業会の蓄積された諸資産を効果的に活用するようお願いした。

多賀工業会本部の寺門龍一(昭 25 専電)会長は祝辞の中で、大学が独立法人化された環境での発展のために、考えるべき諸活動や改革について言及し斯様な必然性から、

(1) 大学は地域と一体となった活動による財政強化のため、経済活動推進社会連携事業会なる組織を設立した。

(2) また、多賀工業会は経済活動をする法人への変革を目指すため、大学職員で無い会長が必要であり、理事長制から会長制とした。

(3) 更なる強化のため、茨城大学の同窓会の強

化をもくろみ、同窓会連合会が平成 18 年 9 月 30 日に結成された。

(4) この連合により強い茨城大学同窓会ができ、また同窓会は大学の発展のため、財政的協力も必要になってくる。

(5) このような状況下において、多賀工業会の保有する諸資産を大学及び茨城大学同窓会の発展に寄与させたい。

との説明があった。

引き続き議事に入り、活動報告、同好会報告、会計報告&監査報告及び支部体制報告があり、全ての項目について承認され、総会は終了した。

引き続き講演会が開催された。広瀬勇二氏(昭 40 学電)の講演内容は素晴らしかった(概要は次ページに掲載)。大学改革においては、卒業生の活躍も大学の評価の一部を成すこととなるので、大変心強い内容であった。ライフサイクルマネジメントなる概念のもと事業展開し、産業界で成功を収めた活躍は賞賛すべきことである。卒業生各位が自らのため努力する中で、また大学に貢献することになるのではないかと信じる次第である。

懇親会は、新規に参加の方、来賓の方、ご高齢の先輩入り乱れて和気藹々の中に進められ、恒例の校歌や寮歌等の大合唱で総会を締め括った。

また恒例の写真の展示も行われ、参加者に感動を与える作品が多数展示された。尚その中の何点かは水高美術展に出展された。

総会時の講演概要

ライフサイクル・マネジメント

(LCM) への挑戦

講師 (株) PFU 常勤顧問 (前社長)
富士通(株)前専務 広瀬勇二 (昭40学電)
文責：大泉雅靖 (昭40学精)

講演要旨：

大学を卒業し富士通に入社、当時珍しかったSEをスタートにコンピューターの仕事をしてきました。10年ほど前に機械の販売にサービスを加味したトータルコストを長期的に見通せる仕組みとして、また顧客満足を向上させる手段としてライフサイクルマネジメント(LCM)に出会いました。



これは富士通の子会社の米国ダラスの会社が提案実行したもので、当時私も富士通の専務として其の会社の役員として係っておりました。この会社は年間430億の売り上げでPOS端末をインターネットで販売し業績を拡大していましたが、NCRやIBMの大手企業が参入し苦戦、存続も危ぶまれる状況になっていました。その折に其の子会社の経営陣からライフサイクルマネジメント(LCM)を提案してきました。性能の良いPOSの販売とコンサル能力を持った営業サービスマンが車に補修品を持ち細やかに対応し顧客満足を向上するとともに、併せてお客様へのトップセールスに成功し事業を拡大し優良企業になりました。

例えば米国シアトルのノードスローム百貨店(創業1901年の大手老舗200店舗)にPOSシステ

ムを提案したときのことで。当然ライバルのNCR,IBMとの競合になり苦戦しました。ちょうど9・11事件の直後でしたが富士通が保証することを要請されました。当時、富士通では米国出張は止められていましたが、調整し早々私が訪問することで相手のトップに高く評価され採用にこぎつけました。その後契約のお礼に日本の浮世絵を持参した際、私にHIROSE 1のマリナーズのユニホームを用意しておりました。顧客第一主義の老舗百貨店の対応には感心させられました。おかげでダラスの子会社は事業を拡大することが出来ました。

その後私は2003年にPFU(パナソニック、富士通、内田洋行)(売り上げ1,000億 従業員4,000人 本社石川県宇野気)の社長としてITバブル後の経営を担当することになりました。業務の再編成でスキャナー部門を強化し業務用として優れた紙送りとクリアー技術、さらにフルラインナップで世界のトップ企業となりました。ちょうど9・11事件後でドキュメントの電子化の必要性、エンロン事件や薬害のためにデーターを残すことが義務化されスキャナーの販売が大幅に伸びおかげで業績を伸ばすことが出来ました。当然ここでもライフサイクルマネジメント(LCM)をビジネスモデルとして取り入れたことも成功の要因でした。今年の6月に社長をバトンタッチしました。



記録者(大泉)から：

さすが実務派経営者の講演で臨場感のある話でした。経営のツールとしてのライフサイクルマネジメント(LCM)について理解することが出来ました。

総会出席者

:(写真出展者とも敬称略)

<来賓> 9名

寺門 龍一 本部 会長 (昭 25 専電)
 檜山 邦良 千葉県支部 支部長 (昭 30 学機)
 上田 正雄 埼玉支部 幹事長 (昭 37 学電)
 小室 敏之 水戸勝田支部 副支部長 (昭 30 学機)

高田 勲 静岡支部 支部長 (昭 37 学機)
 桐敷 忠雄 栃木県支部 副支部長 (昭 35 学金)
 佐藤 博 いわき支部 支部長 (昭 33 学電)
 相原 一彦 仙台支部 副幹事長 (昭 54 学機)
 本告 光男 中部支部 支部長代理 (昭 22 専電)

<会員> 56名

林 義雄 (昭 16 専原)	玉川 信二 (昭 28 学電)	千葉 克男 (昭 34 学電)	飯野 嘉郎 (昭 40 学電)
依田 連平 (昭 17 専金)	藤田 史郎 (昭 28 学電)	高野 久弘 (昭 35 学機)	岡野 克彦 (昭 40 学電)
山本 栄治 (昭 18 専機)	佐藤 久弥 (昭 30 学機)	上月 秀俊 (昭 36 学機)	曾我 道春 (昭 40 学電)
山田 実 (昭 18 専金)	石川 英二 (昭 30 学原)	真下 知行 (昭 36 学機)	新田 峻一 (昭 40 学電)
朽本 二郎 (昭 17 専原)	鈴木 日出男 (昭 30 学原)	小宅 仁 (昭 36 学電)	広瀬 勇二 (昭 40 学電)
柳田 裕美 (昭 19 専精)	三本木 武 (昭 30 学金)	佐藤 栄一 (昭 37 学電)	一重 兼三 (昭 40 学化)
立花 浩 (昭 22 専機)	瀬在 城雄 (昭 31 学原)	阿部 徳治 (昭 37 学化)	高久 洋 (昭 40 学化)
幸道 貞一 (昭 22 専通)	山崎慎一郎 (昭 31 学原)	駒場 方耀 (昭 38 学機)	大泉 雅靖 (昭 40 学精)
飯島 公正 (昭 23 専原)	矢野 睦男 (昭 32 学原)	兼子 八郎 (昭 38 学電)	寺 紘一 (昭 40 学精)
荒川 宣夫 (昭 23 専通)	小室 秋生 (昭 32 学電)	小林 渡 (昭 38 学電)	菅谷 禎男 (昭 42 学機)
斉田 耕平 (昭 23 教電)	田崎 耕八 (昭 32 学電)	高萩 隆司 (昭 38 学電)	石川 久 (昭 44 学子)
渡邊 貢 (昭 26 専原)	山下 正明 (昭 32 学電)	橘 弘 (昭 38 学電)	飯塚 英一 (昭 46 学電)
菊池 玲二 (昭 26 専通)	佐藤 馨 (昭 33 短電)	広瀬 行一 (昭 38 学電)	鳥居塚 卓 (昭 54 学精)
近江 義勝 (昭 28 学電)	粕谷 宏夫 (昭 34 学原)	原 俊彦 (昭 39 学電)	東 学 (平 08 院生)

展示写真:

出展者	作品題名 (撮影場所)	備考 : 水高美術展出展
齋田 和夫 (昭 28 学機)	遊び疲れてチベット (ヤムドク湖)	国際サロン展入選
玉川 信二 (昭 28 学機)	パン職人 (パキスタン・ペシャワール市内)	
	妙なる楽の音 (同上)	
	カシミヤ羊 (同上)	
	工事現場 (同上)	
菊池 玲二 (昭 26 専通)	捕れたぞ (芦ノ湖箱根園湖畔)	
	息吹き (伊豆城ヶ崎)	
鈴木 日出男 (昭 30 学原)	甲羅干し (ネパール・カトマンズ近郊)	北本市芸術祭出展
	岸边 (同上)	北本市芸術祭出展
瀬在 城雄 (昭 31 学原)	金閣寺 (京都)	
田崎 耕八 (昭 32 学電)	十勝連峰 (北海道・富良野)	
	岩稜に咲く (北海道増毛・暑寒別岳)	
	朝もやの彼方に (南アルプス・聖岳)	
	雨にも負けず (南アルプス・荒川東岳)	
阿部 徳治 (昭 37 学化) 所属: 埼玉支部ワンダーフ ォトクラブ	お兄ちゃんと一緒に (ネパール・カトマンズ近郊)	平成 15 年度埼玉県展入選
	惜秋 (軽井沢)	埼玉県コダック支部展出展
小林 渡 (昭 38 学電)	微笑み (こどもの国)	
	ショウゲームの淑女たち (ニュージーランド・クライストチャーチ)	全写連神奈川本部 4 月度月例会入選
	疾走 (馬事公苑)	全写連旭支部 10 月度月例会一席入選

平成18年度多賀工業会東京支部会計報告

収入の部

平成18年4月1日～平成19年3月31日

(単位：円)

費目	18年度予算	実績	増減	摘要
総会会費	800,000	660,000	-140,000	参加65(来賓9)名、祝儀1
年会費	600,000	616,000	16,000	252名308口
本部援助金	250,000	250,000		
広告料	40,000	30,000	-10,000	2件
寄付その他		70,277	70,277	寄付70,000、利息277
前年度繰越金	654,926	654,926		
合計	2,344,926	2,281,203	-63,723	

支出の部

総会費	700,000	605,722	-94,278	
総会場・懇親会費		519,807		会場変更により前年比約87,000増
その他諸費用		85,915		
会報費	600,000	502,521	-97,479	
会報諸印刷費		315,420		1300部発行
会報配送費		139,700		発送部数1270部
その他諸費用		47,101		原稿収集費
会議費	100,000	54,030	-45,970	定例4回
交通費	185,000	124,270	-60,730	
本部・支部総会参加交通費		101,210		本部・7支部総会参加
一搬交通費		23,060		
交流費	235,000	221,972	-13,028	
本部・支部総会参加会費		90,000		本部・7支部総会への参加交流
同好会援助		80,000		4支部対抗ゴルフ・支部内の同好会へ
雑費		51,972		支部HP設定、校歌CD製作、
繰越金	524,926	772,688	247,762	
合計	2,344,926	2,281,203	-63,723	

以上の通り報告致します。

平成19年5月26日

会計幹事

上月 秀俊



上記の通り適切である事を認めます。

平成19年5月30日

監事

榊原 康夫



監事

小宅 仁



平成19年度多賀工業会東京支部予算案

収入の部

平成19年4月1日～平成20年3月31日

(単位：円)

費目	19年度予算	増減	摘要
総会会費	800,000		会費10,000×80名
年会費	600,000		年会費2,000×300口
本部援助金	250,000		
広告料	40,000		4件
前年度繰越金	772,688	117,762	
合計	2,462,688	117,762	

支出の部

総会費	700,000		前年度並
会報費	600,000		創刊10周年記念号発行
会議費	100,000		
交通費	190,000	5,000	本部・9支部総会へ参加
交流費	250,000	15,000	
次年度繰越金	622,688	97,762	
合計	2,462,688	117,762	

[特集]東京支部会報第10号！ その歩みを振り返って見る

☆ 裏表紙に既発行会報の表紙写真を
掲載しています ☆

会報創刊号～3号

支部長 近江義勝(昭28電)
同好会の囲碁、ゴルフ、山遊会、写真部は年々充実してまいりましたが、総会は逆に年々減少しております。振り返ってみますと平成9年秋に各年代別に同級生をとりまとめている人達に幹事になって貰うべく第1回卒(昭和16年卒)以降の方々から1～2名の同窓生が東條会館に参集し打合せ会を行いました。36名の参加を得て貴重なご意見を頂きました。その中で依田連平(昭17専金)さんより支部会報を発行せよとの提案があり、石川守竹(昭24専船)さんをチーフとして準備開始、幸いにして小生が懇意にして頂いていた、本部鈴木理事(昭39学機)、水戸勝田支部山本支部長(昭20専通)、千葉県支部三幣正人支部長(昭24専機)、埼玉支部吉成理支部長(昭28学電)の他、小白井和典(昭28学機)さん、橋本久美(昭28学電)さん及び提案者の依田さん等に原稿をお願いし何とか12ページの創刊号が発行出来ました。表紙の「多賀工業会東京支部会報」の題字は石川さんと同級の杉山六郎(昭24専船)さんをお願い致しました。

続いて2号、3号と石川さんが担当され、年を追う毎に内容が充実してきました。2号(20ページ)からは編集部で東京、神奈川の名所などを写真にとって表紙に使うようにし、カラーとしましたので一段と見栄えが良くなったと思います。

平成11年5月には多賀工業会60周年記念総会が東京支部総会と合同して箱根芦ノ湖園(東條会館直営)にて開催されました。翌年第3号は千葉県支部の原田正夫(昭16専精)さん、東京支部の山本栄治(昭18専機)さん、前東京支部長の渡辺益男(昭19専精)さんの60周年記念総会関連記事の他に、東京支部の渡

・・・はじめに・・・

会報第10号発行を記念して創刊に至った経緯から筆を起し、先輩諸氏の苦労話とか笑うに笑えないエピソードまでも掘り起こして記録しておこうということになり、歴代編集長(初代は故人となられたので支部長代筆)が担当して書き表してみることにとなりました。(編集室)

邊貢(昭26専原)さん、若手では柴野直樹(昭63学金)さん等々に加え石川編集長までが寄稿して32ページの大冊子を作り上げました。こうして出来た3号ではゴルフ同好会や囲碁同好会が発足したことなども報じています。

会報4号～6号(各号24ページ)

副支部長 鈴木日出男(昭30学原)
残念なことに石川さんが病に倒れましたので、編集者の後任をきめる会議が平成12年9月19日(火)15時から東條会館で開催されました。事前に渡辺前支部長から私が指名されましたが、「大役なので引き受け出来ない」旨申し上げましたところ、「石川さんが病身でも引継ぎに来るので黙って引継ぎを受けなさい」と云われました。石川さんは息子さんに支えられて会議に参加され「4号の表紙は逍遙歌のイメージで作りたい」と情熱的に語られたことは今でも忘れられません。その年私がネパールに滞在中に石川さんが鬼門に入れ、遠い異国からご冥福を祈りました。

ネパールから帰国後私、三本木武(昭30学金)さん、溝口知昭(昭32学機)さん、大原節(昭38学機)さんの4名が4号編集担当委員として選任されスタートしました。

幸いにも三本木さんは新聞社に勤務していた経歴があり、割付のベテランだったので心強い思いを致しました。「石川さんが編集した会報に負けない作品を作りたい」との思いで編集作業を行い、表紙の写真は会報の「顔」なので選定には神経を使いました。

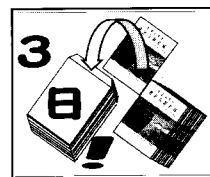
亡き石川さんの「4号表紙は逍遙歌のイメージ」との思いを実現すべく、「桜の江戸城田安門」を撮影して斎田和夫(昭28学機、日本写真作家協会(JPA)理事)さんに監修して頂きましたが、以後も指導をして

頂きました。皆様方のご協力により4号会報が完成した時は内心「ホッ」としました。

5号編集委員には山崎慎一郎(昭31学原)さんも加わり、各支部との関係を緊密にするため「支部めぐり」をシリーズで掲載する企画を採用して、より充実した内容にすることが出来ました。表紙には「おばあちゃんのお宿」と云われている高岩寺(巢鴨のお地蔵さん)を選定しました。

6号編集委員には若い世代を代表していた大原さんが四国へ転居したので、同世代の兼子八郎(昭38学電)さん、小林渡(昭38学電)さんの2名を加え6人体制で制作に当たりました。新たにこの年山遊会や写真同好会が発足しましたので、これらの記事も加わるようになり、内容も洗練され紙面がますます賑やかになりました。表紙写真は横浜港に係留されている「日本丸」としました。七つの海を航海していた日本丸も引退し、現在も海員の練習船として活躍しているので、多賀工業会会員も日本丸同様まだまだ老いず、社会に役立つよう頑張っていきたいという思いで選定したものでした。

会報発送は工専卒は渡邊貢さん、大学28年卒から37年卒までは私、38年卒以降は溝口知昭さんの3名で1,200部を分担し、各自自宅で宛名カードを貼り、封筒に会報を入れて糊付けしましたが、部数が多くて重いので車で郵便局まで運びました。発送作業は実に3日掛かりでした。



特に新卒担当の溝口さんは会員の住所を把握するのに苦労していました。

会報7号～9号(各号28ページ)

編集室長 兼子八郎(昭38学電)
7号から菅谷禎男(昭42学機)さ

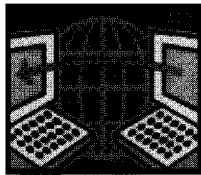
んが編集委員に加わりました。そして若い者に企画編集をさせようとのことで私が責任者に指名され、アイデアマンの小林さんの発案でインタビュー記事[活躍人訪問]を採り入れました。第1回目は昨年総会時に講演に立ってくれた広瀬勇二(昭40学電)さんを、同じ富士通出身でNHKのプロジェクトXにも登場した新沼厚生(昭38学電)さんが訪問しました。また前年の6号配布時に会員の皆様をお願いしたアンケートの集計結果を2ページにわたって報告しています。この中で会報のあり方についての項目があり、4人に1人は会報不要と答えています。幹事会としては会報必要論の立場です。年1回発行の会報とは別にタイムリーに発行できる公報紙として、この年ホームページが開設されました。

この号から表紙写真は写真同好会に参加する会員の作品の中より写真同好会の総会時に選定されることとなり、その第1回目は菊地玲二(昭26専通)さんのスロバキアの首都ブラチスラバで撮られた「語らい」が選ばれました。

従来記事の取り扱い、文字が印刷されたもの又は書かれたものを、活字の大きさとか罫線とかそのページに必要なことを紙面に表して(所謂編集をして)印刷所に届ける形でした。この号からこの編集スタイルを大幅に修正いたしました。

パソコン万能の時代に突入した

感のある時代背景をそのままに、その流れに乗って編集する(文字の形などもWordで決め、紙面を編集者が作成してe-mailで送付する。印刷所ではそれをそのまま印刷する)ように改めました。従って印刷所は只印刷し製本するだけに近い作業内容になってしまいました。所謂活字を拾って紙面を作るとかパソコンにINPUTするとかいう作業が印刷所から消えてしまったわけで、印刷屋さんにとっては付加価値を掛ける部分が減らされてしまった訳です。このような変革のお陰で印刷費用は相当に低減されることとなりました。大方の人が文章はパソコンで書くという時代になったお陰でこのようなことが可能になってきたわけで、ある意味では当然の趨勢とも言えると思われ



れます。8号ではどういう訳か殆どが海外旅行関連のオンパレードとなってしまいました。特殊事例ではありますが、自分としてもびっくりしました。9号では「東京支部の活性化のために」という座談会を企画しました。昭46年卒の人達は昭28~30年の方々以外はやっていない年次全体の会合を持とうとしていることなどが紹介されました。7号から発送形態も改革しました。時代がなせる技とでも云うのでしょうか、これまでは考えられなかった

宅急便による配送方式に変えました。宛先も個人のパソコンで簡単に印刷出来る糊付き宛名ラベルを採用し、梱包と宛名ラベル貼りの作業は幹事会に出席した幹事全員で行うように改めました。大協印刷さんが幹事会の会場に日時を合わせて納品し、宅急便の会社がそこへ集荷に来てくれるので、重い物の運搬作業ともおさらばできました。このような諸々の改革で会報費用は単価比較で言えば凡そ25%の低減となりました。

印刷が仕上がっても発送の段階では、印刷費用の支払いが出来ず、年会費が集まるまで借金していたという笑えない話の時代もありましたが、これらの改革等も功を奏し、今は昔の物語となりました。最近ではおよそ1,300部ほど発送していますが、住所変更会員の転居先不明などで約50部ほど返送されています。

今号では「活躍人訪問」と「支部めぐり」をお休みしてこの記事①「会報10号!その歩みを振り返って見る」と支部長アンケート②「支部の活性化と会員拡大の方策」の特集を行い、今号から読みやすさを狙いA4版に紙面を拡大しました。第11号からは②の方策なども勘案して更によりよい紙面にしていかなければならないと考えていますが、千葉県支部のように年2回の発行を希望する人があるので、費用、内容等も含めて更なる検討を加えて行きたいと思っています。

宛先も個人のパソコンで簡単に印刷出来る糊付き宛名ラベルを採用し、梱包と宛名ラベル貼りの作業は幹事会に出席した幹事全員で行うように改めました。大協印刷さんが幹事会の会場に日時を合わせて納品し、宅急便の会社がそこへ集荷に来てくれるので、重い物の運搬作業ともおさらばできました。このような諸々の改革で会報費用は単価比較で言えば凡そ25%の低減となりました。

印刷が仕上がっても発送の段階では、印刷費用の支払いが出来ず、年会費が集まるまで借金していたという笑えない話の時代もありましたが、これらの改革等も功を奏し、今は昔の物語となりました。最近ではおよそ1,300部ほど発送していますが、住所変更会員の転居先不明などで約50部ほど返送されています。

今号では「活躍人訪問」と「支部めぐり」をお休みしてこの記事①「会報10号!その歩みを振り返って見る」と支部長アンケート②「支部の活性化と会員拡大の方策」の特集を行い、今号から読みやすさを狙いA4版に紙面を拡大しました。第11号からは②の方策なども勘案して更によりよい紙面にしていかなければならないと考えていますが、千葉県支部のように年2回の発行を希望する人があるので、費用、内容等も含めて更なる検討を加えて行きたいと思っています。

今号では「活躍人訪問」と「支部めぐり」をお休みしてこの記事①「会報10号!その歩みを振り返って見る」と支部長アンケート②「支部の活性化と会員拡大の方策」の特集を行い、今号から読みやすさを狙いA4版に紙面を拡大しました。第11号からは②の方策なども勘案して更によりよい紙面にしていかなければならないと考えていますが、千葉県支部のように年2回の発行を希望する人があるので、費用、内容等も含めて更なる検討を加えて行きたいと思っています。

今号では「活躍人訪問」と「支部めぐり」をお休みしてこの記事①「会報10号!その歩みを振り返って見る」と支部長アンケート②「支部の活性化と会員拡大の方策」の特集を行い、今号から読みやすさを狙いA4版に紙面を拡大しました。第11号からは②の方策なども勘案して更によりよい紙面にしていかなければならないと考えていますが、千葉県支部のように年2回の発行を希望する人があるので、費用、内容等も含めて更なる検討を加えて行きたいと思っています。


今号では「活躍人訪問」と「支部めぐり」をお休みしてこの記事①「会報10号!その歩みを振り返って見る」と支部長アンケート②「支部の活性化と会員拡大の方策」の特集を行い、今号から読みやすさを狙いA4版に紙面を拡大しました。第11号からは②の方策なども勘案して更によりよい紙面にしていかなければならないと考えていますが、千葉県支部のように年2回の発行を希望する人があるので、費用、内容等も含めて更なる検討を加えて行きたいと思っています。

私たち大協印刷は、

印刷に関わるあらゆるサービスをご提案しております。

ぜひ一度ご相談ください。


PR関連商品	<ul style="list-style-type: none"> ■会社案内 ■広報紙 ■社内報 ■ポスター ■カタログ ■パンフレット ■マニュアル ■チラシ ■記念誌 ■パネル ■ダイレクトメール
IR関連商品	<ul style="list-style-type: none"> ■事業報告書
学術関連商品	<ul style="list-style-type: none"> ■紀要 ■学会誌
事務用品関連商品	<ul style="list-style-type: none"> ■名刺 ■封筒各種 ■伝票各種 ■レターヘッド ■速達封筒
その他	<ul style="list-style-type: none"> ■一般書籍 ■自費出版(句集、詩集、写真集) ■名簿 ■名刺ラベル等 ■その他



DAIKYO PRINTING Co.,LTD.

大協印刷株式会社

〒110-0016 東京都台東区台東2-4-14
 TEL:03-3837-5291/FAX:03-3837-5293
 E-mail: info@daikyo-print.co.jp



AT00504101

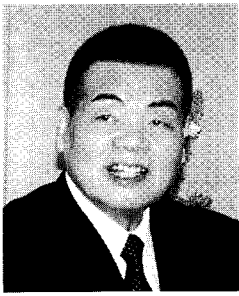
<http://www.daikyo-print.co.jp>

[特集] 支部の活性化と会員拡大の方策

～各支部長アンケートから～

副支部長兼幹事長

三本木 武 (昭30学金)



支部会報は、その地域や地区に在任・在勤する同窓会員への情報発信と交換の媒体として役立っているだけでなく、会員

相互の親睦と支部の活性化をはかるために不可欠なものとなっています。

小生は今までに、多賀工業会の全国14支部のうち関西、鹿行、中国四国、九州支部を除く10支部の総会に出席して、何処の支部からも異口同音に「支部の活性化と会員の増強（特に若手会員の参加）」に悩んでいることを伺いました。

また、今まで「支部会報」に掲載してきた「支部めぐり（千葉県、埼玉、水戸勝田、栃木県、いわき）」の内容にも同様なことが記載されています。

東京支部は、今年「支部会報」を発行して10周年という節目の年を迎えます。これを記念して、全国の各支部長からも意見を伺って「支部の活性化と会員拡大の方策」と題する「特集号」を作成することにしました。関係者の皆さまにとって少しでも参考になれば幸いです。

[1]各支部の組織と構成

最近の各支部の内容（組織と構成）および活動状況はどうなっているのか？アンケート調査を行いました。その結果は下記の第1表に示す通りです。

この表からもわかるように、年会費を徴収していない支部が3支部（日立綜合

合、中部、九州）があり、中部と九州は会報も発行していません。

また、総会の開催時に出席者を増やすために実施している講演会もやっていない支部が3支部（鹿行、中国四国、九州）あります。

同好会を持たない支部も5支部（関西、中部、中国四国、九州、日立綜合）ありますが、日立綜合は同好会活動を企業支部に一任しており、一部では活動しているようです。

こう見て来ると各支部とも多少の相違はありますが、多賀工業会の目的である「会員相互の親睦をはかり併せて母校の隆昌に寄与する」ことに少なからず貢献していると思います。

[2]支部の活性化と会員拡大の方策

支部を活性化するためには、何と言っても、その地域の構成会員が相応に多くなくてはなりません。

★ (10頁上段★印へ続く)

第1表 多賀工業会全国支部の主な内容(組織・構成)

(平成19年6月)

支部名	千葉県	関西	埼玉	水戸勝田	静岡	東京	鹿行	栃木県	いわき	仙台	中部	中国四国	九州	日立綜合	
設立年月日	昭31.2.5	昭45.11.23	昭50.10.18	昭51.11.13	昭53.12.11	昭56.6.27	昭56.10.17	昭59.3.11	昭60.8.4	昭61.6.15	昭63.8.1	昭63.10.23	平2.5.19	平5.2.16	
所在地	〒271-0093 松戸市小山 523-8サン グリーン松戸 -303	〒594-0041 大阪府和泉 市いぶき野 3-5-11-306	〒335-0012 戸田市中町 2-14-31 上田正雄方	〒310-0005 水戸市水府 町1544-3茨 城電話工業 (株)内	〒435-0056 浜松市小池 町2798-1 寒風沢線方	〒113-0032 文京区弥生 2-8-6	〒314-0012 鹿嶋市平井 1298-29	〒323-0042 小山市外城 23-4	〒973-3204 いわき市平 字新町10-2 小幡勲方	〒981-3204 仙台市泉区 寺岡5-10-9 手塚秀方	〒476-0033 東海市荒尾 町北遠鐘10- 41	〒732-0062 広島市東区 牛田早稲田 2-15-17	〒870-0125 大分市松岡 490-3 片山貴嗣方	〒317-0075 日立市相賀 町18-1 佐々木興業 (株)内	
支部役員	支部長	榎山邦良 (昭30学機)	及川敏 (昭38学金)	野口恵伺 (昭30学機)	内山岩男 (昭30学機)	高田勲 (昭37学機)	近江義勝 (昭28学電)	川浪英靖 (昭43学金)	滝 宏 (昭33学原)	佐藤 博 (昭33学電)	渡部 晃 (昭39学電)	佐藤博泰 (昭37学金)	長沼 静 (昭38学金)	鈴木規夫 (昭31学機)	磯崎公郎 (昭35学原)
	副支部長人数	1	2	6	3	3	2	2	3	—	3	3	4	—	9
	幹事長	大和田武義 (昭32学電)	伊勢山宏 (昭40学化)	上田正雄 (昭37学電)	神部 隆 (昭33短電)	寒風沢 毅 (昭41学機)	三本木 武 (昭30学金)	廣木伸好 (昭45学金)	中村勇夫 (昭42学化)	小幡 勲 (昭35学電)	手塚 秀 (昭40学電)	菅谷伸夫 (昭45学機)	高村正和 (昭42学電)	片山貴嗣 (平10学物)	佐々木幸一 (昭53学機)
	幹事人数	16	17	30	20	20	25	10	16	11	13	18	9	—	32
	年間会議回数	9	7	5	5	4	4	5	3	3	6	2	2	—	2
連絡先電話番号	047-365- 3943	0725-56- 6528	048-446- 0500	029-224- 2000	053-464- 3060	03-3811- 7088	0299-82- 5303	0285-22- 3625	0246-23- 3223	022-878- 1574	052-601- 1665	082-228- 2601	097-520- 2906	029-421- 6424	
名簿会員数	1,172	450	742	2,000	340	2,400	200	500	248	284	448	112	176	900	
会費	年会費(円)	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	なし	2,000	なし	なし	
	納入者数	196	130	219	200	75	281	20	110	90	—	29	—	—	
	頁数	16	16	24	10	12	28	16	16	約32	20	なし	18	なし	24
会報	発行部数	2回で 1,300	2回で 1,000	350	1,200	400	1,300	150	500	250	300	なし	130	なし	500
	発送部数	4月 575 10月 625	450/回	270	1,100	340	1,250	60	480	200	284	—	115	—	350
	出席者数 内訳	32 工専 9 大学 21 短大 2	28 工専 2 大学 24 院 2	49 工専 9 大学 39 短大 1	50 工専 10 大学 27 短大 13	25 工専 3 大学 21 院 1	69 工専 11 大学 56 短大 1 院 1	15 工専 1 工教 1 大学 13	30 工専 5 大学 24 院 1	37 工専 9 大学 18 院 4 他 6	30 工専 2 大学 28	31 工専 6 大学 22 院 3	8 工専 1 大学 7	13 工専 2 大学 11	100 工専 7 大学 72 短大 6 院 15
総会関係	総会費(円)	10,000	10,000	10,000	6,000	8,000	10,000	6,000	7,000	8,000	5,000	8,000	5,000	8,000	6,000
	会場	東天紅	ホテル	ホール	ホール	その都度 決定	上野精養軒	ホテル	ホテル	報徳苑	ハーネル 仙台	愛工大本山 キャンパス	ホテル	ホテル	ホテル
	講演会の有無	有	有	有	有	有	有	なし	有	有	有	有	なし	なし	有
	講師	同窓生 茨大OB	同窓生	茨大OB	同窓生	不定	同窓生 茨大OB	—	同窓生 地域著名人	同窓生 その他	同窓生	同窓生	—	—	同窓生 茨大OB
同好会会員数	ゴルフ	30		40 むさし野会	40 真弓会	8	36	8	20	18	20	有志で実施			同好会活動 は企業支部 に一任してい る
	囲碁	38	な	36 越基会			38		8	8	6	な	な	な	
	俳句	20		4				5 釣り			9 釣り				
	万歩	27	し				24 山遊会				12 登山、 万歩、 ワンゲ ル	し	し	し	
	写真			33 ワンダーフォ ト			8	5							
	その他				26 元気会		5 快舞会	6 クルージン グ	18 トレッキ ング						

第2表 各支部の運営と活性化のための方策

設問 支部	①、年会費納入会員を増やすにはどうすればよいか。	②、卒業年度別の幹事をどう選んだらよいか。	③、同好会への参加会員を増やすにはどうしたらよいか。	④、総会出席者を現行出席者数よりも増やすにはどうしたらよいか？	⑤、女性会員の参加を促すにはどうしたらよいか？	⑥、その他参考になると思われる意見等があれば記入下さい。
千葉県	1、同好会を通じ、会員同志の接触の機会を増やす。 2、会報で活動をPRして関心をもたす。 3、愛校の気風(精神)を醸成する。	卒業50年、30年など節目の会員を総会に特別招待し、歓迎の意を表して祝賀行事を組み、ここで幹事を選出する。	1、熱心なリーダーが必要(例:俳句会は師匠がいなくて成り立たない) 2、家族の参加を認め交流を広げる。	1、総会だけでは一般に出席率は落ちる。 2、懇親会が付かなければもっと少なくなる。 3、講演会(恩師)などで呼び込む。	1、複数の女性会員を幹事にし、その幹事から女性会員を誘って貰う(夢である)。 2、一般的に会費などを割安にする優遇処置をして誘導してはどうか。	1項の補足として母校愛、連帯感、プライドがうすれ、利己的で他人のためには働かない傾向にある。大学教育の課程で母校の伝統を伝え、課外活動を通じ、協同体意識を育むことが必要。
関西	支部会報は会費納入、非納入に関係なく発送(郵便振込用紙同封)しているが、効果は芳しくない。	特に卒業年度別に選んでいない。積極的な人に頼んで幹事になってもらっている。	昨年ゴルフ会を企画したが、会員が集まらず困っている。支部として、これから同好会について考えて行こうと思う。	1、平成年度卒業者は、会費半分になっているが集まらず苦労している。 2、昭36学電の人達4~5人がミニ同窓会として参加している。	関西支部には女性会員が殆どいない。	4項の補足として同学科や同学年の人達のミニ同窓会(特に懇親会)として毎年参加してもらおうのも一つの方法であると思う。
埼玉	会報での呼びかけ(非納入会員には届かない)だけでなく、活動状況を知らせる文書を送り、関心を引き付ける。	各卒業年度(クラス別)の幹事に各支部活動への参加を呼びかけ、参加者の中から適当と思われる人に委嘱する。	4項に関連するが近隣支部と相互乗り入れてでも各同好会の参加会員数を増やし、活動状況を会報で宣伝する。	講師選定に工夫を凝らすこと、同好会活動が活発に行われていることを示すことが重要な要素となりうる。	女性会員というより会員の奥様の参加を認めることも考慮されてよいのではないかと。	3項に関連するが会員の多様なニーズに応えるためにも出来るだけ同好会の種類を増やすのも一方法かと考えられる。例えば既存のものに加え、園芸クラブ、パソコン同好会などである。
水戸勝田	会報に会員の声や会費の納入状況を掲載して関心を持って貰う。また会費納入者が減少しないよう考えなければならない。	幹事会での検討事項であり、会費納入者や総会に出席している会員に対し、支部長又は幹事長が幹事に当たらなければならない。	同好会は組織力があっても、リーダーへの依存度が大きいので、支部としてはリーダーへの支援とその育成が必要である。	会場は集まり易い駅付近に設定し、会費も抑えて会員が溶け込める雰囲気の中で開催出来るよう計画し、多数の会員に参加を呼びかける。	「自主的に参加して良かった。また参加してみたい。」と思えるような会にする。そのため、良い企画を考えていかなければならないと思う。	会員名簿(更新を含む)は、本部を通して出版社サウトから市町村別、卒業年度順の名簿を出して貰い役立てている。支部役員で特に支部長・幹事長は後任がいれば2期で交代し、新たな編成で会の活性化を図って貰う。
静岡	総会案内の書面上で会費納入を強く訴えると共に、未納者には再度督促状を送る。	10年毎に各科別を考えた。	支部会員は現役組の比率が高く、また時間的な余裕がなく、同好会参加は当分望めない。	開催地を特定せず、また興味を引きそうな催し物を追加したい。	1名のみ名簿上在籍するものの応答なし。特に考えていない。おそらく年齢的に結婚されていると思われる。	
東京	1、幹事の卒業年次、学科の会員に対して入会を働きかける。 2、会報発送先の適正化を再検討。 3、同好会の参加者への入会促進。	1、昭和45年卒(60歳)を中心に幹事を選ぶのが最良策。 2、本会に関心の強いリーダーやキーマンを選んで呼び込みを行い会員を増やす。	会を力強く引っ張って行くリーダーを探し、その人脈を中心に会員の増強を図る。同好会の参加者には出来るだけ総会に出席してもらおうとする。	1、魅力有る各種のイベントを開催すること。 2、講演会もその例、講師は現役同窓生が良い。 3、周年幹事に総会の運営すべて(出席会員業)を任せる。	女性1~2名を核とした女性だけのサークル(旅行・グルメの会といったもの)を立ち上げて誘いをかけてみてはどうかと思う。	1、企業ベースで会員の増強を図る。(日立総合支部の例) 2、同期会が参加率の高いことに着目し、同期会と同窓会の連携を図る。 3、同好会(趣味の会)を核として先輩と後輩との交流をはじめ支部の活性化を図る。
鹿行	直接会員に声をかけている。	若手を中心に幹事役を引き受けてもらう。	地域の特色を生かした同好会を増やす。支部として湖水を生かしたヨットクルージング会を実施中である。	職業別、会社別、地域別にまともな声をかけあう。		
栃木県	幹事等と面識の有る未加入者の一本釣りを会報など情報連絡時の呼びかけと確認を行う。	卒業年度別ランク(3~5年間隔)で選ぶ。	同好会での口コミ。支部としては活動の支援(お金、情報の連絡など)を行う。	幹事、出席経験者による勧誘。 情報連絡のアピール。 壮年会員の悩みに答える先輩会員の人生経験談。	女性会員を支部役員にする。	職業(仕事)、企業(会社)地域での仲間と同窓生グループを作って強化していく。同好会では良く集まる(4割近い参加)がどうして総会には集まらないのか、その訳は？
いわき	職域分会、地域分会の設定(今年度総会時に提案の予定)	年度別は考えていない。	総会、会報などでのPR。	職域、地域分会活動の活性化。	登録会員に女性は少ない。	
仙台	会報の充実。会報への積極的投稿依頼。	できるだけ若年層の幹事を増やす。	会員を趣味の同好会に引き入れて年会費の納入や総会に出席を促すための同好会であってはならない。あくまでも同好の集まりでよい。少なくとも活動する。	幹事の呼びかけ、同級生の声かけにより、新規出席者を一人でも多く増やす。	女性会員は2名、既婚と当支部では意味なし。	1、新卒者名簿の入手方法の検討が必要。会員は減少の一途。 2、総会出席者数は、年間の同好会活動などが増えれば減少してくる傾向がある。しかし年間トータルでの参加人員増で活動評価すべきである。
中部	年会費なし。(会報を発行していないため、会費徴収を断念した。)	卒業年度と学科を振り分けている。総会の出席率の高い人を重点に選ぶ。	同好会なし。(但し、有志でのゴルフなどあり)	名案なく困っている。幹事が知人や同じ会社の後輩に声をかけているのが現状である。	名簿上では5名ほどいるが、常時1名は参加している。これも名案はない。	会員名簿を平成16年まで2年に1回発行し、唯一の活動らしき活動が、個人情報保護法問題でこれも中止している。何とか新入会員の名簿が手に入らぬものか。皆さんと取り組んで行きたい。
中国四国	総会に参加した人は必ず会費を納入して下さるので、人脈を活用し参加者を増やすのが良いと考える。			会社関連、学科、学年などの人脈で電話をしているが、参加者が少なく悩んでいる。		納入会費内でやっている支部なので、会報も最低の費用で作成している状況。小生が幹事長をして支部を作った関係で活動しているが、後継者も不安である。
九州	若手会員(昭30~50年)の関心を集めるために商談会のような場所にして、出席者を増やしたい。	基本的には大手企業の役職者を中心に幹事をしてもらいたいが、会には欠席する人が多い。	各県毎に小エリアが集まることで会合の数が増やせる。	同左		小エリア毎に経済効果がある者同志が連絡を密にとり、少数の会合を繰り返す方が良い。エリアが大きすぎると会場場所が遠く行けなくなる。行って良かったと思う商賈の話が出来る会にしたら良いと思う。
日立総合	年会費の徴集はしていない。当支部は15企業支部と日立南・中央・北の3支部計18支部から成る総会参加者の会費及び広告協賛金(協賛者)を増やすこと。	企業支部をとりまとめた総合支部の為幹事選任は企業支部に一任し、力量のある幹事を副支部長に昇任している。	各企業支部がそれぞれ活動しており、総合支部としては同好会がないので、コメントできない。	企業の統廃合に伴い企業支部数が減少傾向にあり、新入会員の増加も期待が薄く、企業に帰属しない会員の掘り起こしが必要。	毎年1名の出席あり。先ず女性会員のリストアップで積極的なリーダーを探すこと。まだゴルフ程度は催すべきか。	当支部収入の科目別比率(H18年度)は総会費54%、広告協賛金24%、本部補助金14%、その他8%である。昭60年以降卒の若年会員(総会出席比率20%強)の要請により、母校との交流のため、H17年度総会から教授の研究を演題とする講演会をはじめた。

★（8頁第1表の右上★印から続く）

また、その運営資金も潤沢とまでは行かないまでも、必要最低限の資金は確保しておく必要があります。

そのため支部としては年会費、役員・幹事、総会、同好会の4本柱はしっかりとしなければなりません。これらについての各支部のアンケート結果は前頁の**第2表**に示す通りです。

1. 年会費の納入者を増やすにはどうすればよいか？（支部の運営資金を安定させるため）

まず会員に対し、会報とホームページの両面から支部の活動状況を知らせて、関心を持って貰うことです。

また、同好会を通じて会員同士が接触する機会を出来るだけ多くして、本会を知って貰う努力をする必要があります。

このようにして支部の存在を知り、関心を持った会員に対しては、会費の納入、未納入に関係なく、有効に会報を発送（郵便振込用紙同封）すべきだと思います。

新規会員の発掘については、取り敢えず支部役員（支部長、副支部長、幹事長、幹事など）の卒業年次、学科の会員に対して早急に入会を働きかけて貰うべきであろう。

日立総合、中部、九州の3支部は年会費を徴収しないで支部の運営をしているが、誠に立派なことであり、羨ましい次第です。

2. 卒業年次別の幹事をどう選んだらよいか？（幹事を中心に会員を増やすため）

幹事は支部の運営を担う重要な役割を持つ会員なので、昭和45年卒（60歳）前後の会員を中心にして、本会に強く関心を持つキーマン的存在の会員やリーダー格の会員を卒業年次別、学科別に探し出すことだと思います。

例えば、企業（会社）での役職経験者とか、クラス会（同期会）の世話役・幹事と言った会員の方に幹事をお願いする方法もあります。

3. 同好会への参加を増やすにはどうしたらよいか？

趣味の同好会は、支部の活動を活性化するための基礎になっているように思います。

会員は同好会には入り易いので組織はできて会を引っ張って行くリーダーが少ない。従って各同好会は強

力なリーダーを選出し、その人脈やグループに呼びかけ、口込みなどにより更に会員の増強を図るべきです。

また、近隣支部と同好会の相互乗り入れを行い、参加会員との情報交換などで会員を増やすのも活性化の一方方法だと思います。

既にゴルフは水戸勝田、千葉県、埼玉、東京など4支部（栃木県が参加して5支部のこともある）懇親会があり、囲碁は千葉県、埼玉、東京の3支部に加入した会員がそれぞれの支部の大会に参加し合っており、更にこの3支部から代表を定めて旧水戸高等学校（茨大の前身の一つ）のOBとの親睦囲碁対抗戦なども実施されるに至っています。更に写真同好会も埼玉支部のワンダーフォトと交流を始め、撮影会や作品批評会における相互乗り入れが始まっている他、旧水戸高等学校OBと共催の「水府美術展」に出展するなど多大な成果を収めています。

今後とも支部同士での意見交換は積極的に行い、良いアイデアがあれば共有して行くようにしたいと思っております。

同好会を持たない支部は、その地域の特色を生かした同好会を立ち上げられる事をお薦めします。鹿行の湖水を生かしたヨットクルージング会はその好例でしょう。

いずれにしても、同好会の参加者が総会を盛り上げてくれることを望んでいます。

4. 総会出席者を現行出席者より増やすにはどうしたらよいか？

総会は支部にとって年1回の最大イベントです。何としても現行出席者数を越えなければなりません。それには次のような方法が考えられます。

……やってみてはどうか。

①各幹事に会員名簿から同期生をピックアップして出席を呼びかけて貰う。

②総会の懇親会にクラス会（ミニ同期会）を組み入れてやって貰う。

③同窓生の沢山いる企業（会社）の役職者（同窓生）をお願いして、会社の同窓生に総会への出席を依頼して貰う。

もちろん、総会には従来通り講演会と懇親会を切り離さず行います。ただ講師には出来るだけ若手同窓生を招き、苦労話とか体験談を話して貰う工夫が必要のように思います。最近、埼玉と東京が総会の会場内で会

員の撮った写真の展示会を行っております。これが大変に評判が良く出席者に請けておりますので、他支部にもお勧めいたします。

5. 女性会員の参加を促すにはどうしたらよいか？

会員名簿に女性会員が居れば会報を送付し、脈（感触）があれば声をかけてみます。

女性会員は、一般的に会費などの優遇措置が考えられているので本会でも考えます。

女性会員のリーダー格を決めて、女性だけのサークル（旅行、お茶、グルメ会といったもの）を立ち上げ、口込みとか呼び込みで入会を勧めて行きます。

今後は女性役員の誕生が楽しみです。

6. その他

今回のアンケート**第2表**⑥項に記入されている各支部の意見を是非ご覧下さい。参考になる点があると思います。

ここで、新入会員の名簿の入手方法についての質問が有ったのでお知らせします。

本部事務局（電話 0294-36-4617）を通して依頼すれば、名簿出版社「サラト」から都府県、市区町村別、卒業年次別の名簿を出して貰えます。若干諸費用がかかります。

[3]むすび

支部の悩みは集約すると、年に1回開催する総会にどれ位の会員が出席してくれるか？ 年会費を納めてくれる会員がどの位いるか？ という事ではないだろうか。

これには正解もなければ妙薬もない。

同窓会が老人会とならないように、若手会員を集めたらどうかとか、色どりに女性会員が集められたらというのは、余りにも姑息な手段ではないだろうか。

本質は母校への愛や友情があつて、連絡があれば集まって来るということを望みたいが、これは夢のまた夢です。いずれにしても、これらの重責は“団塊の世代（60代）の同窓生”にお任せすることにしましょう。

最後にお忙しい中を時間を割いてアンケートにご協力下さいました支部長、幹事長の皆様に対し、心より厚くお礼申し上げます。

前支部長 渡辺益男氏のご逝去を悼む

広瀬 行一 (昭 38 学電)



2月26日、東京支部2代目支部長の渡辺益男氏(写真左)が82歳でご逝去されました。

心から哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り致します。東京支部が、まだ会として正式に組織化されていなかった頃、渡辺氏は今では故人

となられた東條氏、石井氏、藤村氏、曾根氏らや林(24専金)氏、市島(18専金)氏、近江(28学電)氏、鈴木(30学原)氏らと時々、同窓の集まりを開いておられました。やがてこれが母体となって、埼玉、千葉県両支部のお骨折りを頂き、正式に東京支部が発足いたしました。渡辺氏は常にその中心になり、会の運営のために労力のみならず、私財をも投入する等、ご尽力されておられました。

氏は昭和19年精密機械科を御卒業後、東京高等工業(現東工大)の建築学科に進み、若くして渡辺建築事務所を設立されて、「ホンダ」「小西六」など優良企業を顧客に持ち、今日の業容を築かれました。19年精密には、埼玉の柳田氏、「日立」の元取締役の岡部氏、「蛇の目」の田中氏ら錚々たる面々が揃っておられ、後輩の面倒も良く見て下さいました。私も会に出席し、そこでお知り合いになれた渡辺氏に媒酌の労を取って頂き、お陰様で結婚40周年を迎えることが出来ました。氏は館林市出身で地元の中学の同窓会長を長く務めておられ、他にも会社の業界関係の要職なども引受け、多忙を極めておられました。持前のファイトとおおらかな性格で夫々の任務を遂行されておりました。

私は個人的にも鈴木氏や吉成氏と度々ゴルフに誘って頂き楽しい思い出として残っています。渡辺氏のご活躍の陰には素晴らしい奥様の存在がありました。公私に亘り御多忙であった氏を支えつゝ、氏のご両親を最後まで介護されお二人のお子様を立派に育て上げられ、氏が病床に伏されてからは献身的な看病を続けて居られました。

大先輩を失った悲しみは深いですが、東京支部発展の為に尽力する事が氏の恩に報いる事ではないかと考える次第です。合掌

ホームページ編集室から

HP編集委員 矢野 睦男(昭32学電)

多賀工業会東京支部のホームページも2004年10月開設以来、総会の案内・報告、幹事会の報告などに加え各同好会からのお知らせ、活動報告などを掲載し、ページ数も約90ページ。アクセス者数も、約3,000となりました。

HP編集室としてはこのホームページが会員への情報連絡の場として、少しでも役に立てばと思い、最新の情報を迅速に掲載することに主眼をおき、文字なども大きく読みやすさに心がけ制作しております。

昨年までは本部サーバーの一部を借用し運用しておりましたが、今年より商用サーバーを借り、独自ドメインも取得しました。また、埼玉支部にも呼びかけ、同じサーバーを利用させていただくことになり、それにともないURLも次のように変更になりました。

東京支部 URL : <http://tokyo.tagakgk.com/>

埼玉支部 URL : <http://saitama.tagakgk.com/>

その外、必要有れば独自にメーリングリストの開設。メールアドレスの取得も可能となっています。

Eメールで多数の方に同時に連絡する場合、宛先に送信先全員のアドレスを記入して発信していませんか、個人情報保護の点から注意が必要です。宛先またはCCにアドレスを記入すると記載された方全員に配信先全員のアドレスを教えることとなります。最近迷惑メールが非常に増えています。対策として自分のアドレスを変更することが有るかもしれませんが、そのような場合、変更通知のメールの宛先またはCCにアドレス帳全員のアドレスを記入しないようにしましょう。

このような場合には宛先には自分のアドレスを記入し、BCCに配信先全員のアドレスを記入します。そうすれば個人情報を漏らすことを避けられます。

トップページに編集室宛WEBメールが設定されています。みなさまのご意見を待っています。

山形、庄内地方の春

—学童期の追憶をもとに—

粕谷 宏夫(昭34学原)

§まえがき

人は誰しも、常日頃様々な事に思いを巡らせながら生きているものと思う。そんな中に、瞬時に過ぎ去ってしまうもの、永く居続けるもの、或いは繰返し去来するものもあれば、当に千変萬化である。私には、時に触れ、折りに触れて憶うものの中に、生まれてより小学校卒業迄を過ごした我が故郷がある。

その私を惹きつけて離さぬ最たるものは、めりはりに富んだ四季と風物にあるものと思う。併も年経れどもその魅力は一向に衰えを見せない。

その庄内とは、吾妻連峰を源とする日本有数の大河、山形のシンボリック的存在である最上川の最後の流域が、県の西、日本海に面した庄内平野である。庄内地方は、最上川の水の恩恵による日本の代表的穀倉地帯として知られている。

平野には北部、最上川河口の港町として発達した商都酒田市と南部には庄内藩十四万石の鶴ヶ岡城を中心に栄えてきた庄内の中核都市鶴岡市とがある。

余談ではあるが、鶴岡出身の時代小説作家、藤沢周平の作品の舞台にもなっている海坂藩、それは取りも直さず庄内藩であると云われている。

§庄内の春

私の生れ育ったのは、前述の両市の間、遮るものとして無い庄内平野のど真ん中の町、余目町である。さほど積雪は多くはないが、雪を伴った風の強い事では日本の中でも名にし負う。一昨年末に町内で発生した不幸な列車転覆事故は未だ記憶に新しいところである。

1) 雪割り

冬も終りに近付くと、流石に強風も鳴りをひそめ、急に辺りが静まり返り薄日さえ漏れ始める。そうになると、いよいよ待ち焦れた春の到来である。

人々は生活に、農作業に邪魔以外の何ものでもない雪を除去し土を見たい、踏みしめたいとの思いに駆られる。人々は踏み固められて氷の様に堅くなった家の前の道路の雪を、頑丈な専用のスコップで割っては捨てるのが春先の行事であった。我々子供達も当然の如くその手伝いをした。そして地面が乾くのが待ちきれず、外の空気を一杯に

吸いながら春の遊びの一つである「こま」回しに興じたものである。

2) 雨垂れ

太陽が顔を覗かせる事が多くなり、陽射しも徐々に強くなると、屋根の雪解けが始まる。家の周りのそこかしこで単調な雨垂れの音がひねもす聞こえ、時折ドドーと音を立て、落ちる屋根の雪に、春眠の夢が掻き消される。こうなると春の足音も本物と云えることになる。

今でも、こんな春の温もりに満ちた穏やかな昼下がりに思いを馳せると自然と眠りに入れるから不思議である。

3) 早春賦

冒頭に述べた繰返す追憶の中に忘れ得ぬ歌がある。それは吉丸一昌作詞、中田章作曲の名曲「早春賦」である。此の度発表された、文化庁など主催の「親子で歌いつごう日本の歌百選」にも入っている。

父は旧制中学、高等学校では生物の教師であったが音楽好きで、よくレコードやオルガンで音楽を聞かせてくれたものだった。その父が、春未だ浅き折、家の側の雪解け水の流れる小川の辺りで、「春は名のみ、風の寒さや・・・」と唄ってくれたのが懐かしく思い出される。

4) 陽春の輝き

自然の輝きとか、美しく輝く季節とか言う表現は耳にもし、口にもするが、併し庄内地方の春を語る時、それでは物足りぬものを感じる。田植えのこの時期、人も町も勿論自然も全てが躍動感に満ちている。平野の北には残雪を頂く鳥海山、東の月山は白く輝き、何処までも続く田畑の水面は眩しく陽光を映し、空気までが白く煌めいているように感ずる。

§むすび

春を迎える喜びや感動、それは厳しい冬を体験して初めて感じ取り語り得る事では無かるうかと思う。拙文を最後までお読み頂き、有難うございました。

著者のプロフィール

1959(S34)：精密切削工具メーカー入社

1979(S54)：金属加工機メーカーに転職

1989(S64)：電気機器メーカーの管財人に就職

1994(H06)：前期金属加工機メーカー監査役

1995(H07)：同上顧問

1999(H11)：退任。現在に至る

大学雑感

矢嶋 國男（昭38学精）

*精密工学科一回生

私は、昭和34年に新設された精密工学科1回生として入学した。当時の日本経済は、朝鮮動乱を契機に急速に復興し、昭和31年の経済白書では「もはや戦後ではない」と発表、昭和34年4月には、今上天皇と美智子さまのご結婚、翌35年には、東京オリンピックの開催が決定するなど、日本中が好景気に沸き立ち、三種の神器といわれた白黒テレビ・電気洗濯機・冷蔵庫等が量産され始めた時代である。しかし、生産手段は人手による旧態依然としたものであり、一部に、カムなどによる装置単体の自動化が見られる程度であった。当時は、コンピュータとかトランジスターは、まだ普及されておらず、次世代を担う新技術であるとして、世界中の研究機関とか大学が競って実用化研究をし始めていた。その様な時代の要請を受けて、精密工学科は新設されたわけだが、新設の認可が遅れ、確か、入学願書を出してしまった後、受験当日、会場で第一志望を精密工学科に書き換えたように記憶している。また、新設学科であったために、当時、サーボ機構の自動制御による「ならい旋盤」で歯車の加工精度が世界一を誇っていた東京工業大学精密工学研究所で卒論を取ることが許され、貴重な体験もした。

ソフトウェアなどという名称すらなかった時代であるから、教科内容は機械工学をベースとした制御工学、システム工学であり、それに電気磁気学、電気回路論等が必須として加えられていた。後に新設された、システム工学科、情報工学科とは全く異なった性格だったと思っている。

*専攻学科により考え方が異なる

当時の「精密」は、機械がベースあり、考え方とか手法は機械屋的に育ったが、大学での専攻が機械とか電気に分かれることにより、不思議と考え方とか手法が違って来るようである。機械屋は、実際の現象を全て理論的に整理することは不可能で、近似解が得られれば最高だと教えられる。電気では全く逆に、理論が現象より優先されるようである。そのため電気屋は、理論に自信を持っている人が多いように思う。確かに、電気分野では、



理論或いは設計内容に対して実験或いは試作結果が異なった場合、実験をやり直すという。このような場合、機械屋は実験結果に合わせて理論或いは設計を変えるものだと思っている。この辺が「機械は学問ではない」と言われる理由だと思うが、良し悪しではなく、この根本的な違いは確かにあると、古希を迎えた今、つくづくと思うのである。大学卒業後も、その専門の仕事に携わる人が多いから、専攻した専門分野の考え方や手法が、その人の人生の基礎となっている。大学での生活は、いろいろな意味で重要なのだと改めて思う。

*考え方、手法が役に立った

大学卒業後は、NTTにおいて通信システム造りの仕事に携わり、その後は、NTTとは全く異なる発電機やモータの製造会社の経営再建を託されたが、いずれにおいても全体をシステムと捉え、事実を優先して近似解を得るという機械屋の考え方が大いに役に立った。無論、大きな失敗も何度もなく経験したが、その際もシステムの捉え方と機械屋の発想が解決の原点になったように思っている。NTTと合計すると45年以上にわたる仕事中心の忙しい生活であったが、悔いのない人生を送ることができたと思っている。

*文明の進化に精神が就いていけない

少しでも便利に楽になるようにと、私もその一翼を担ってきたと自負しているが、反面、自然破壊、環境汚染に気付き、世界規模で問題解決に取り組むはじめている。しかし、それ以上に問題なのは、文明の進む速さに精神が就いていけなくなったことである。「キレル」「自殺」「いじめ」「子育て放棄」「親殺し/子殺し」「虐待」など、殆どが精神不安に起因しているように思えてならない。人間だけが傍若無人に振舞い過ぎて、既に、人間自らが自然淘汰の道を突き進んでいるように思えてならない。贅沢とか便利さは程々にして、文明の行き過ぎにブレーキが必要だと思い始めている。

著者プロフィール

1937年 長野市に生まれる
1963年 電電公社（現NTT）に入社
1990年 画像電信事業部長を最後に退社し、信濃電気㈱に入社
1992年 信濃電気㈱代表取締役社長
2006年 全事業を㈱ディスクに譲渡
2007年 信濃電気㈱清算予定
生涯テーマ 子育て（父性の役割）
趣味 テニス、囲碁、油絵

支部総会の思い出

菊池規子（平4短化）

日立総合支部総会に参加するきっかけとなったのは、職場の上長からの案内でした。

☆ 初めて参加した時 ☆

上長より支部総会の案内があり、「参加しませんか。私も参加しますので。」という笑顔の後押し(?)半分で、好奇心の半分で参加申し込みをお願いしました。

支部総会は平日の夕方より開催されるので、この日は就業時間終了のチャイムが鳴ると、すぐに机を片付け、会場へ向かいました。会場は私の職場から車で30分程かかるので、支部総会参加を理由に早々に職場を後にしました。(仕事とは直接関係しませんが、何と言っても上長公認ですから♪♪)

この頃は私も独身で、電車で通勤していたので、電車と徒歩で会場へ向かいました。初めての支部総会参加で『わからない時は上長を頼れば何とかなる』と頭ではわかっている、内心ドキドキしながらの移動でした。また、同じ会社の方も何人が出席される、という事は伺っていましたが、直接ご縁が無い方たちばかりでしたので、楽しみ半分、緊張半分の移動でした。

会場のホテルに到着し、受付を済ませ、支部総会が開催される部屋を教えてください、部屋に入ろうと入口のドアを開けると... 既に到着されている方の雰囲気や圧倒され、入口から中に入る事が出来ず、躊躇していました。上長のエスコートにより何とか中に入る事ができ、上長の隣に座り、総会開催の時刻を待っていました。

総会は始まりましたが、何もかも初めての事で、話が右の耳から左の耳へ抜け... あまり理解できないうちに総会が終了。引続き懇談会となり、和やかな雰囲気に包まれましたが、やはり緊張は解けず、食事やお酒はおいしいのですが、『普段より』は遠慮気味に頂いていました。その様な心境でしたが、お酒が入った事もあり、上長を介して周りの方と少しずつ会話ができる様になりました。緊張も懇談会が始まった時に比べると少なくなり、徐々に皆様と和やかに会話を楽しむ事が出来る様になった事を覚えています。

この時だったでしょうか、私の所属する会社の初代社長も参加されており、その方が上長と会話を楽しむ為に席を移られ、上長が緊張しながら昔話に花を咲かせている横で、私も緊張しながら少しだけ会話に参加した記憶が残っています。

この当時は私も非常に(!?)若く、ある方から見れば、娘か、孫か、という年齢でもあったので、皆様から多くのお心遣いを頂いた事も覚えています。(懐かしいですね...)

☆ 参加回数が増えてきて ☆

この様に、初参加の頃を思い出すと、『まあ、何てし

おらしい (!!)]と我ながら苦笑が顔に出てしまいます。(20代だった事もあるかもしれませんが)それから何度か出席させて頂きましたが、回を重ねる毎に私の顔も覚えて頂き、自然に声を掛けて頂ける様になりました。

更には『明日は出席できないから宜しく!』と出張先の上長よりお電話を頂いた事もありました。

(初参加の頃の待遇はどこへ行ったのやら)それでも、支部総会の開催日を心待ちにしていたのも事実です。

皆様にお会いできる事、普段では聞く事が出来ないお話を伺える事、普段お会いしない方が多いので緊張はしますが、それでもその方達と多分野に渡るお話を伺う事ができる事に楽しみを覚えています。

☆ 今年の予定 ☆

つい先日、いつもの笑顔で『総会なんだけど』とお声を掛けて頂きました。

今年は『多賀工業会本部総会』と『日立総合支部総会』が同時に開催されるとの事で、非常に楽しみにしていました。是非参加したいと考えておりますが、子供の行事と重なっており、現在調整中です。(初参加の時は独身でしたが、現在は小学3年の子供を持つ母となっております。)

☆ まだ、参加された事のない方へ ☆

『総会』と聞くとかきこまった雰囲気と考えられると思いますが、懇談会は和気藹々と楽しく過ごす事ができます。また、色々な方(年齢、お立場、職種など)とお話をする事ができますので、是非、一度は参加されることをお勧めします。

そうする事により、これまで知りえなかった事に会い、同じものでも違った見方ができ、新しい発見をすることができますよ。



☆ 私事ですが... ☆

最近の私は、工作上、色々な事に携わっております。最近の出来事では、職場のボウリング大会の幹事を担当しました。その時の参加者は91名で、ボウリング場が貸切となった程の盛大ぶりでした。この写真はその時のものです。(中央に写っているのが私です。)

著者プロフィール

平成4年 短期大学部工業化学科卒業
同年 (株)日立エンジニアリングサービス入社
平成10年 出産&育児休暇
平成12年 職場復帰
現在 『上長』と同じ職場で執務中

北九州懐古旅行

田中栄太郎（昭40学化）

孫の誕生

平成18年秋、北九州在住の息子夫婦に子どもが生まれ、産後の手伝いに行く妻に同行することになった。孫の成育も順調に経過し、滞在予定日数も少なくなったある日、息子夫婦から車付温泉旅行をプレゼントされた。そこは、熊本県北東部に位置する黒川温泉で、福岡県に隣接する大分県日田市からおよそ56kmの所にある。もちろん初めての場所である。出発の朝、彼は「ナビとETCカードをセットしたから、自動車道路で行った方が良いでしょう」といってキーを渡してくれた。

北九州の思い出

北九州市は、在職時の昭和58年から若松区にある電源開発(株)(現在のJパワー)敷地内で行われていた「高濃度石炭スラリーの研究」に従事し、4年ほど単身赴任していた所だ。日田市付近までは、土日の休みを利用して一、二度、高取焼、上野(あがの)焼、小石原(こいしわら)焼および小鹿田(おんた)焼窯元めぐりで、一人レンタカーで来たことがあった。炭鉱町の面影を残す街並みやこの土地独特な形をした山々を横目で見ながらひたすら走ったものだった。

その懐かしさで、再び同じ道を通って見たい気持ちと、妻へ出張当時の我が行動の一部でも体験させたい思いがつのり、彼の好意を無視する形で、ナビをオフにして南下する一般道で出発したのであった。

道中記

R322(国道322号線)、県道52号線およびR500でようやく小石原に到着した。昼食はだんご汁で済ませ、簡単な買い物をした後、今晚の宿に着くことだけしかないので、ナビをオンにして黒川温泉へ向けて出発した。日田市の高井町交差点で、ナビは東方向に左折を指示するものと期待していたが、右折をアナウンスされた。私は、地図上では左方に目的地があると出発前から頭に入れておいたつもりだったので、思い切って左折しようとしたが、助手席の妻がナビに従えとの意見で、納得いかないまま右折したところ、まもなく杷木ICに入る指示が出た。妻を何とか説得して、道の駅「原鶴」で方向転換した。その後は彼女に地図を渡し、ナビゲーターになってもらい、R386、R212、R442経由で目的地の宿に到着した。

部屋は露天風呂付き離れで内湯もあり、雲間に見える月を紅葉の木々の隙間から眺め、小川のせ

せらぎを耳にして浸る露天風呂は、なんとも言えない風情があった。翌朝までに、この旅館の大露天を含む三つの温泉に何度入ったか数知れない。

阿蘇パノラマラインにて

**牛馬優先道路です*



翌日は、竹田市、阿蘇山まで足を伸ばし、午後3時ごろR211に入り、大行司から52号線に入った。人影がない両脇畑の農道らしき所を過ぎたあたりで、道を間違えたかの心配が頭をよぎった。妻は幾度か「間違えたじゃないの」というが、もう少しゆけば、昨日の52号線に合流するとの期待感から、黙って走り続けた。「小鹿田方面」と書かれた小さな標識を眼にした時、この道に間違いないことを確信した。

鬱蒼と茂る木々の中を走行中、人の背丈よりやや低い丸味形状の大石を路上に見つけたときは、びっくりした。車を止めて近づくと注意書きらしい紙が貼ってあった。最近の落石らしい。幸いにも徐行ですり抜けることが出来、その後も全く人と車に会うことなく、道幅が広くなったり狭くなったり、舗装、未舗装を繰り返す森の中の一本道を走り通して出口に到着した時は、ほっとした。地図帳には、普通の道のように記載されているが、予想とは全く違っていて複雑な気持ちになった。ほぼ予定の午後6時過ぎに無事帰宅し孫の寝顔を見て安堵した。

ドライブ中は、妻の要望で、ルートにある「道の駅」にはほとんど寄って買い物と休憩などを楽しんだ。今回の旅で印象に残ったのは、人一人、車一台も会わなかった例の道を走ったことや、20数年前を彷彿させる彦山川沿いの土手道を走りながら見た風景である。一見、平凡な景色でも、私には、これこそ筑豊地方を特徴付ける風景と感じられるのであった。

著者プロフィール

1965年 工業化学科卒業
石川島播磨重工業(株)入社
1999年 定年退職
1999 ~ 2004年 関係会社
趣味 : 囲碁、旅行、読書

定年技術者の ボランティア体験記

伊藤征洋（昭42学電）

平成15年3月、36年間勤めた電機メーカを定年退職した。再就職先を探すよりも、今までの経験や技術が役に立てばと思い、JICA（独立行政法人国際協力機構、発展途上国向けODAや人材派遣等を行っている。外務省の所管）のシニアボランティアに応募して、昨年までの2年間、カンボジアの技術専門学校で、電子工学の講師と技術アドバイザーを勤めて来た。団塊の世代が退職後を迎えた昨今、定年後の生き甲斐にと希望している人が多いと聞いており、拙の体験記が諸兄のご参考になれば幸いである。



1. 現役時代の技術経験

卒業した昭和42年、大手電機メーカに就職した。その頃は、TIが最初にデジタルICを開発し（国産メーカは2年遅れた）、デジタル時代の幕開けの時期であった。仕事は、郵便番号の読取区分機の開発である。この機械は、ポストに投函された（郵便局の窓口で持込まれた）、葉書や手紙の向きを自動的に揃え切手を消印した後、5桁（現在は7桁）の郵便番号を読取り、行先別のポケットに区分する機械である。これには、切手を判別する色の識別技術、郵便番号を読取る光学技術、手書数字を識別する認識技術、郵便物を行先ポケットまで搬送する制御技術等、電子、電気、光学、機械等、それぞれの要素技術の開発からスタートした。毎日が深夜迄の残業であったが、若輩の技術者には勉強と感動の日々であり、この時に無我夢中で習得した技術と経験が、その後30余年間の技術者としての活動の礎になったと言える。

2. 定年後の技術者の活路

最近、団塊世代の技術者より活路について相談を受けることがある。私の定年の頃は、就職氷河期で、定年後の再就職は厳しい状況であった。JICAがシニアボランティアを募集していること

を知り、調べたところ、技術関係の職種も多くあるので応募した。経験や抱負についての小論文を提出し、語学テスト（英語）と面接を受験したが、案ずることはなかった。最近では、語学が現地語指向となり、2ヶ月（私は1ヶ月）の語学訓練（カンボジア語）が派遣前研修に用意され、より平易に参加できる仕組みになった。諸兄も定年後の活路の一案として、ご検討されては如何であろうか。

3. 現地での活動

JICAから指示された派遣先は、第一希望のカンボジア国立技術専門学校であった。同国の教育省から、①専門科目のカリキュラムの改善、②実習の技術指導、③先生、生徒への技術相談と指導、等の要請を受けた。配属された学校は日本の工業高校程度のレベルであった。講義は技術書の内容を黒板に書くだけ、実技は電気製品の修理が主体で、実験や発表等、生徒に興味を持たせる取組みが無く、まずは、この方面からの改善をする活動目標を設定した。又、マイコンの授業が無かったので、学科と実習に60時間のカリキュラムを新規にスタートさせた。紙面の関係で詳細は割愛するが、教材の作成、実験設備や部材の購入、研修会の開催等、目標はクリア出来た。経費はJICAより、年に機材費4,000ドル、活動費2,000ドルが支給され、費用の面での苦労はなかった。

4. 所感

当初は、定年後の暇つぶしになればと思い応募したのだが、その様な考えは通用しなかった。学校では、先生や生徒への対応、宿舎に帰ると、インターネットで技術情報の検索や資料の手配等、定年間際の時より遥かに多忙であった。しかしながら、役に立った時の彼らの笑顔は何物にも変えがたかった。ボランティアの立場から無給ではあるが、JICAより（潤沢といえぬが）宿泊費と生活費が支給され、生活に困ることは無い。同窓諸兄のこれまでに習得された経験と技術が、発展途上国に還元されることを切に期待したい。

昭和42年	茨城大学工学部電子工学科卒業
同年	東京芝浦電気（現東芝）に入社
平成15年	東芝を定年退職
同 16年	JICAよりカンボジアに派遣
同 18年	海外技術者研修協会専門家講師

（連絡先：yito@cameo.plala.or.jp）

東京支部総会参加の魅力

鳥居塚 卓 (昭和54年学精)

☆ 今まで東京支部総会に参加しなかった訳
茨城大学を卒業してから、東京に来て27年が経過しました。その間、多賀工業会の東京支部の会報が定期的に来ていました。しかし、目を通す程度で興味がありませんでした。会報を見ると、上の世代の方が参加されていることがわかり、参加しても話す話題もないし、参加する意義もないだろうと考え、参加してきませんでした。

☆ 参加する気持ちに変わった理由

それなりのことは、やって来て、充実感を感じていました。しかし、最近、物足りなさを感じていました。

このような時期に、多賀工業会・東京支部から、「産業界で活躍している多賀工業会会員の皆さんへ」というタイトルで手紙が来ました。その中に、PFU社の広瀬氏の講演会が役に立つという案内と、ネットワークの拡大が期待できるという文章がありました。

先輩の話が聞けることと、人のネットワークの拡大により、今考えていることの回答を探す機会ではないかと考えました。知らない先輩方がたくさんいますが、今までとは違ったものが見えてくるのではないかと考え、参加することにしました。

☆ 参加した感想

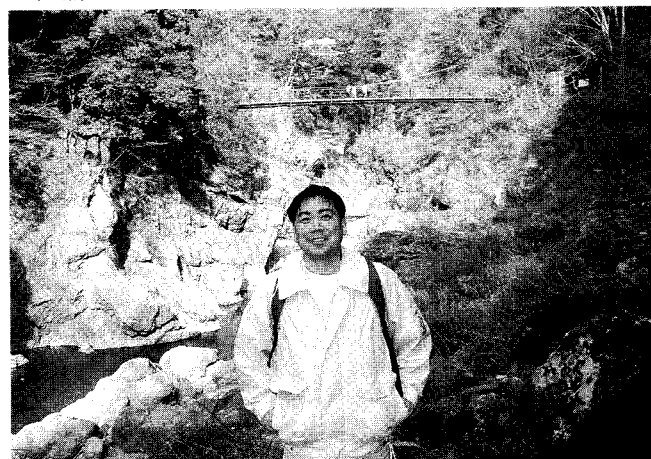
参加した感じでは、参加している方との年代が離れていて、大先輩ばかりで、何を話してよいのか、とても困ってしまいました。しかし、先輩が、暖かく話しかけて下さいました。お話しを聞いてみると、現役として、仕事をされ、今でも活躍されていることが分かりました。また、60歳過ぎて、茨城大学に行き、研究して卒業した方がいたのには、とても驚きました。

また、期待していたPFU社の広瀬氏の講演は、参考になりました。講演の中で、紙より電子データの方が安全であるということ。それは、アメリカでビルに飛行機が突っ込んだテロだったということです。安全と思っていた紙の書類が燃えてなくなってしまうことで、アメリカでは電子化する必要性を認識し、紙を電子データ化する需要が増えたということです。紙を読み取り電子化するのが、広瀬氏のPFU社でした。これは、我々も

紙で、多数の文書を保存しているので、保管の方法を変える機会となりました。

☆ 参加の魅力

講演会后、広瀬氏とお会いし、PFU社に行くことができました。PFU社では、読み取り機の説明、検索システムなどについて紹介いただきました。しかし、取引という段階まで進まず、お話を聞くということで終わっています。また、取引する機会があればと、機会を待っております。また、人の交流の方では、自宅近くに先輩が住んでいることが分かりました。残念ながら、その後の交流ということには、至りませんでした。先輩の中には、今でも現役で活躍されていることがわかったときは、驚きました。



自宅から近い鳩ノ巣溪谷にて (妻撮影)

今回のように、会社以外の人と話すというのは、外気に晒すことになり、自分は何ができるのかということを探すのに、とても有効だと感じました。世代が違えば、考え方や価値観が違います。そのような人と話すことで、自分ということを見つめ直す機会が与えられたと感じました。まだ、自分に対する世の流れの要請に気付くためにも、違った立場の人と話すことで、自分というのを発見できるかもしれないと思っています。私と同じようなことを感じている方が、たくさんいると思います。魅力的な集まる会になるよう、新しい方の参加を期待し、本会が今後も継続し続けることを期待しております。

著者プロフィール

- 1979年 茨城大学精密工学科卒
- 1981年 茨城大学大学院精密工学専攻卒
- 1981年 日立製作所入社 (東京在勤)
- 2003年 ルネサステクノロジ (日立・三菱事業統合により設立) 現在に至る。

平成18年度会費納入者

(敬称略、順不同)

(平成19年5月31日までに納入された方)

* 会費ご納入有難うございました。納入された方で記載漏れや間違いがありましたらご寛恕の上、ご連絡下さい。
未納の方はご入金をお願いいたします。
Tel & FAX 045-891-2232(本名簿作成者:兼子)

氏名の前の口は平成17年度以前分も同時納入の方で中の数字は繰上年数を示します。

氏名の後の○は平成19年度以降分を同時納入もしくは既納入の方で中の数字は前納となる年数を示します。

昭16専機 ①大矢 純一	昭20専電 都築 久一①	昭24専精 平木 康一	昭29学電 森 章太郎
昭16専機 森本 裕	昭20専通 山本 奎兵衛	昭24専電 白石 壽男	昭29学金 照沼 清
昭16専原 小川 義夫	昭22専機 小亀 秀郎	昭24専電 前川 信雄	昭30学機 佐藤 久弥
昭16専原 林 義雄	昭22専機 佐藤 喬太郎	昭24専通 城田 一成	昭30学原 石川 英二
昭16専精 浅田 敬二	昭22専機 立花 浩	昭24専通 戸木 禮一	昭30学原 鈴木 日出男
昭17専機 大野 三知雄	昭22専原 唐沢 繁美	昭24専舶 小峰 弘	昭30学電 木村 好延
昭17専機 岡崎 幸晴	昭22専金 明石 和夫	昭24専舶 杉山 六郎	昭30学金 黒沢 正蔵
昭17専機 田邊 邦行③	昭22専金 大河内 栄一	昭24教機 福地 三郎	昭30学金 三本木 武
昭17専原 ①久米 武男①	昭22専通 菊地 契吉①	昭25専原 忍田 邦夫	昭31学機 早乙女 保二②
昭17専原 鎗木 正	昭22専通 幸道 貞一	昭25専精 ①京野 五一	昭31学機 横山 亨夫
昭17専金 田邊 良美②	昭22専通 小塚 潔	昭25専電 高橋 清	昭31学機 新田 和夫
昭17専金 依田 連平	昭22専通 谷口 貞作	昭25専電 村山 錦右	昭31学原 瀬在 城雄
昭18専機 菅原 庄一①	昭22専通 中村 弘	昭26専原 永山 正美①	昭31学原 山崎 慎一郎
昭18専機 宮崎 至誠	昭22専通 ①前田 豊昭	昭26専原 渡邊 貢	昭31学電 大内 孝
昭18専機 山本 栄治	昭22専通 今井 俊夫	昭26専精 関内 正	昭31学電 藤川 俊明
昭18専精 立枝 茂男	昭22専通 保坂 博	昭26専通 菊地 玲二	昭32学機 伊藤 義次
昭18専金 市島 健男	昭23専機 内山 哲夫	昭26専舶 井坂 孝	昭32学機 川又 俊夫
昭18専金 山田 実	昭23専機 梅田 政夫	昭28学機 高田 丈夫	昭32学機 柴田 勇治
昭18専電 関根 宗一	昭23専機 向芝 新市	昭28学機 小白井 和典	昭32学機 平沢 正一
昭18専電 八角 方二	昭23専原 飯島 公正	昭28学原 柳沢 裕	昭32学機 溝口 知昭
昭19専原 朽本 二郎	昭23専原 名島 龍雄	昭28学原 山口 茂男	昭32学原 矢野 睦男
昭19専原 藤田 勲①	昭23専金 相澤 力	昭28学電 稻見 孝	昭32学原 榊原 康夫
昭19専精 小泉 篤	昭23専金 菊地 秀利	昭28学電 近江 義勝	昭32学電 田口 嘉男
昭19専精 渡辺 益男	昭23専金 ①村山 昭平①	昭28学電 白瀬 達郎	昭32学電 田崎 耕八
昭19専精 柳田 裕美	昭23専電 塩野 譲	昭28学電 玉川 信二①	昭32学電 山下 正明
昭19専精 柴 敏夫	昭23専通 荒川 宣夫	昭28学電 橋本 久美	昭32学電 ①横山 衛①
昭19専金 大鷹 浩介	昭23専通 岡山 保男	昭28学電 藤田 史郎	昭32学電 渡辺 英雄
昭19専電 関口 利男	昭23専通 馬場 昭	昭28学電 山崎 恵三	昭32学電 小室 秋生
昭19専通 飯村 亮三	昭23専通 松沢 清次②	昭28学電 大森 通	昭32学金 穂坂 邦光
昭19専通 酒井 忠光	昭23専舶 森 栄一郎	昭28学電 中原 太平	昭33学機 ①奥 康治①
昭20専原 海老原 謙次郎	昭23教電 斉田 耕平	昭28学金 赤城 清	昭33学機 照沼 義光
昭20専原 友保 伊弘	昭23教電 千野 吉治①	昭28学金 古市 長	昭33学原 吉久保 節男
昭20専精 山田 初太郎	昭24専機 小林 長和	昭29学機 雨澤 道雄	昭33学電 鳥居 由幸
昭20専精 田島 廣一	昭24専機 白土 四男	昭29学機 今村 純一	昭33学金 三浦 陽
昭20専電 加藤 慶祐	昭24専機 戸田 慶昭	昭29学原 石橋 弘④	昭33短電 伊藤 誠二
昭20専電 柴 英雄	昭24専機 若林 麟介	昭29学原 大久保 半吾	昭33短電 佐藤 馨
昭20専電 柴田 信夫	昭24専精 鳥山 尚利	昭29学原 奥野 真治	昭34学原 粕谷 宏夫

昭34学電	千葉 克男①	昭38学機	佐藤 幸一	昭39学機	佐川 六郎	昭43学子	佐藤 将彦
昭34学電	森田 敏夫	昭38学機	丹下 宏	昭39学電	黒崎 貞之	昭43学化	池上 毅
昭34学電	高野 史雄③	昭38学機	豊田 元雄	昭39学電	原 俊彦①	昭44学機	鈴木 善則
昭35学機	高野 久弘	昭38学機	寺門 章	昭39学電	大原 広哉	昭44学子	石川 久
昭35学機	山口 宣之	昭38学機	中村 好秀	昭39学金	入江 暢泰	昭44学子	常盤 浩央
昭36学機	上月 秀俊	昭38学機	長谷川 幸夫	昭39学金	横山 安行①	昭44学子	堀口 正治
昭36学機	境 茂郎	昭38学機	半田 守正	昭39学化	小野 真	昭44学精	菊地 政行
昭36学機	笹生 右	昭38学機	牧山 永三	昭39学化	大谷 義隆	昭44学精	山口 良治
昭36学機	真下 知行	昭38学電	今橋 富美男	昭39短機	1 猿田 俊彦①	昭45学電	永木 利夫①
昭36学機	松本 延四郎	昭38学電	大久 忠雄	昭40学機	熊倉 通	昭46学電	飯塚 英一
昭36学機	横山 馨	昭38学電	兼子 八郎①	昭40学電	飯野 嘉郎	昭46学電	狩野 守
昭36学機	綿引 憲夫	昭38学電	後藤 紀夫	昭40学電	岡野 克彦	昭46学子	栗原 功幸
昭36学電	小宅 仁②	昭38学電	小林 渡	昭40学電	曾我 道春	昭46院機	岡本 和彦③
昭36学電	川松 正長	昭38学電	佐々木 登喜夫⑤	昭40学電	新田 峻一	昭47学子	五十嵐 喜良②
昭36学電	佐伯 明良①	昭38学電	田川 政行①	昭40学電	広瀬 勇二	昭49学機	柳下 幸夫①
昭36学電	橋本 正直	昭38学電	橋本 政巳	昭40学電	山崎 輝行	昭50学子	松田 実
昭36学金	鈴江 芳雄	昭38学電	矢萩 久	昭40学金	松本 二郎	昭52学子	福田 光男
昭36学金	高信 和明	昭38学電	根本 勤	昭40学化	一重 兼三	昭53学電	水島 好彦
昭37学機	坏 弘	昭38学電	熊谷 文男①	昭40学化	2 大内 莊平	昭54学精	鳥居塚 卓
昭37学電	上田 正雄	昭38学電	高萩 隆司	昭40学化	高久 洋②	昭56学精	松本 久幸
昭37学電	佐藤 栄一	昭38学電	小島 淳	昭40学化	田中 栄太郎	昭57学機	小林 裕一
昭37学電	田北 嵩晴	昭38学電	坂野 栄	昭40学化	森 俊和	昭57学機	水口 一郎②
昭37学電	西川 正登	昭38学電	橋 弘	昭40学精	大泉 雅靖①	昭58学電	深作 浩
昭37学金	篠原 康祐	昭38学電	寺内 賢一	昭40学精	寺 紘一④	昭60学精	豊福 秀敏①
昭37学金	2 舟田 隆	昭38学電	広瀬 行一④	昭42学機	菅谷 禎男③	昭61学建	橋間 洋子
昭37学化	1 寺門 紘	昭38学化	大塚 進	昭42学電	1 荒巻 成孝	昭63学金	橋本 豊重
昭37学化	阿部 徳治	昭38学化	松浦 正明	昭42学金	小藪井 健	平04学情	秋山 英樹
昭37短機	白川 勇一	昭38学化	矢部 功一	昭42学化	井藤 紘	平07学電	鈴木 真①
昭38学機	河上 弘一	昭38学精	黒羽 昇	昭42学精	下ノ村 勇	平08院生	東 學
昭38学機	小林 一	昭38学精	矢嶋 國男	昭43学機	1 遠藤 義和③	平16院電・子根本	英次
昭38学機	駒場 方耀	昭39学機	筧 逸男	昭43学電	後藤 豊弘	昭36学機	柏木 尚①
昭38学機	桜井 衛	昭39学機	小林 章夫④	昭43学子	小澤 茂		合計 275名

平成17年度分会費納入者

昭19専精 小泉 正男 昭28学原 戸島 日出雄
昭26専金 有賀 久 昭33学原 山崎 勝雄

平成18年度寄付者名簿

昭40学電 広瀬 勇二 50,000
昭38学機 豊田 元雄 10,000

平成18年度分と同時納入の方は、平成18年度会費納入者欄の氏名左側に数字入りの口印をつけて表示しています。
(平成18年6月1日～平成19年5月31日まで)

ご寄付有難うございました。
(平成18年6月1日～平成19年5月31日まで)

昭18専金 市島 健男 10,000

年会費納入のお願い : 添付の払込取扱票でお早めにご入金下さい。
寄付の場合もこの用紙をお使い下さい。



囲碁同好会

会長 新沼 厚生 (昭38学電)

囲碁の会場は、通常、市ヶ谷にある日本棋院で午前10時から、昼食を挟んでの熱戦が繰り広げられます。一時期6Fの和室を使っていましたが、最近では3Fの椅子席室を使っています。

現在、部員の登録者は専通22の大先輩から、学子44の若手までの方々38名で、棋力は7段から4級まで色々です。

通常の会の参加者は15人から25人程度です。試合は、持点数によるハンディ戦ですので、どんなに強くても、弱くても、誰でも勝敗の確率は、いつも50%です。

1日で5回戦の試合をしますので、5試合とも全勝の確率は32人に1人です。しかし、戦いは時の運、相性のいい、悪いなどあり、理論どおりには必ずしも行きません。

当会では、棋力や勝敗にこだわらず、楽しく、さわやかにをモットーに続けて行きたいと思っております。

大会は、年に4回で、2月、5月、11月の第2土曜日と8月の第1土曜日です。

囲碁を通しての出会いに興味のある方は、是非、ご参加下さい。思いがけない出会いが待っております。

一日の試合が終われば、希望者により、会場近くで簡単な懇親会を行なっています。



第27回大会対局風景、日本棋院6F燦燦の間
開催年別参加者の推移



第30回大会対局風景、日本棋院3F

開催年	H12年	H13年	H14年	H15年	H16年	H17年	H18年
大会No.	1~4	5~8	9~12	13~16	17~20	21~24	25~28
参加者数	24	41	56	66	70	71	77

参加者数は年々伸びてきています！

大会入賞者 (前支部会報第9号記載以降)

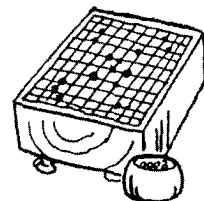
大会	開催日	優勝	準優勝	3位	4位	5位	6位	7位	奨励賞
27	06-08-05	高田三	上田三	高橋三	山下七	田中四	豊田三	菅谷2	近江4
28	06-11-11	兼子二	豊田三	高田三	田中四	広瀬二	関三	山下七	菅谷2
29	07-02-10	山下七	桜井二	真下七	原四	関三	兼子二	高田三	山崎1
30	07-05-12	山下七	真下七	穂坂初	小白井四	新沼四	高田三	照沼四	幸道初

(注) 和数字は段位・算用数字は級位を示す。

連絡窓口

幹事 新沼 厚生

TEL 045-903-6766



ゴルフ同好会

幹事 兼子 八郎 (昭38学電)

年間行事として春秋2回のコンペと5～6月の5支部懇親コンペを催しています。

(1) 平成18年4月11日(火)

赤羽ゴルフ倶楽部

参加者：16名(敬称略)

(9号で既報)

(2) 平成18年5月30日(火)

5支部懇親コンペ水戸ゴルフクラブ

支部代表：4名(敬称略)

近江(28電)、山崎(28電)、上月(36機)、青野(41化)

☆ 当支部の他に水戸勝田支部、千葉県支部、埼玉支部と特別に鹿行支部の代表が参加しました。

(3) 平成18年11月8日(火)

紫カントリークラブあやめ西コース

参加者：17名(敬称略)

林(16原)、友保(20原)、幸道(22通)、近江(28電)、石川(30原)、佐藤(35機)、山口(35機)、上月(36機)、真下(36機)、上田(37電)、大久(38電)、兼子(38電)、北島(39機)、高久(40化)、森(40化)、大泉(40精)、青野(41化)

優勝：上田(グロス78 イーグルあり)、

準優勝：森、3位：佐藤

☆ 秋も大分深まり晴れ渡った、申し分のないコンペ日和でした。第1回工専卒の林さんやS20卒の友保さんと云った大正生まれの大先輩にもご参加を頂き、年齢は二回り分の幅広さとなって、平均年齢71歳の楽しい会となりました。友保さんはグロス94で廻り「若者よ しっかりせよ！」と活を入れられたかのようなようでした。

(4) 平成19年4月10日(火)

紫カントリークラブあやめ東コース

参加者：11名(敬称略)

友保(20原)、難波(23機)、酒井(25教)、近江(28電)、石川(30原)、佐藤(35機)、上月(36機)、真下(36機)、林(36機)、上田(37電)、兼子(38電)

優勝：上田(前回に引き続き連続)、

準優勝：佐藤、3位：近江

☆ 桜も終わりに近づき山桜系が頑張っていますが、随所で見かける海棠が鮮やかでした。今回も大正生まれの大先輩お二人のご参加を頂きました。喜寿を超えられた4名の方にはゴールドラインを設定して、そこから打って頂いても良いことにしましたが、ゴールドラインは使いたくないと云う先輩もおられました。

連絡窓口 (入会歓迎です!)

兼子 八郎 TEL: 045-891-2232

E-Mail: nyanko8686@hotmail.com



H19.4.10

紫カントリークラブにて

(敬称略)

後列左から

石川、林、
真下、兼子、
上月、上田

前列左から

佐藤、友保、
難波、近江、
酒井

写真同好会

小林 渡 (昭 38 学電)

東京支部写真同好会「多賀いちょう写真部」は平成 15 年に発足しました。現在会員 12 名、春、秋に撮影会を実施しております。また、埼玉支部ワンダーフォトクラブのご好意で支部の行事に参加させて頂き技術の向上、親睦を深めております。また新年会には支部会報の表紙の写真を決めております。昨年 4 月からの本年 3 月までの活動は以下の通りです。

* 春の撮影会 6 月 19 日 (月) 北鎌倉アジサイ寺で有名な「明月院」で実施しました。当初 16 日 (金) に予定しておりましたが、朝方豪雨に見舞われたため延期しました。当日は薄日のさす状態、見ごろのアジサイ、花ショウブを求めて大勢の見学者が訪れておりました。

* 秋の撮影会 11 月 15 日 (水)～16 日 (木) 埼玉支部ワンダーフォトクラブのご好意で「秩父一泊撮影・研修旅行」に参加しました。参加者 10 名、3 台の車に分乗、西武飯能駅を出発、鳥居観音、有馬峠、秩父で紅葉を撮影、夜は各自持参した作品の研修会を行いました。研修会は作品のコンペ、講評によりレベルアップに大変役立ちます。翌日は中津峡で撮影しました。

* 新年会 1 月 26 日 荻窪で開催しました。参加者 7 名、埼玉支部ワンダーフォトクラブ部長 高橋 伸二 (昭 41 学機) 氏も参加され埼玉支部との連携を確認しました。恒例のコンペでは玉川 信二 (昭 28 学電) 氏のベトナム中部

海岸ニャチャンで撮影した「アオザイを脱いで」に決定しました。

* 報告事項 齋田 和夫 (昭 28 学機) 氏、鈴木 日出男 (昭 30 学原) 氏及び筆者は全日本写真連盟埼玉本部、神奈川本部に属し活動しております。主な入選状況は以下の通りです。

・ 齋田 和夫氏

第 66 回国際写真サロン 入選

第 56 回埼玉県美術展 (県展) 入選

第 23 回埼玉県写真サロン招待出展

モノクロトーン公募展 準特選入賞

・ 鈴木 日出男氏

第 9 回花物語写真展 優秀賞

第 56 回埼玉美術展 (県展) 入選

第 23 回埼玉県写真サロン 出展

・ 小林 渡

全写連神奈川本部

平成 18 年 4 月度月例会 入選

平成 19 年 1 月度月例会 入選

* 多賀いちょう写真部は活動の範囲を広げております。平成 19 年度から旧水戸高等学校の「水高美術展」を発展させ茨城大学と合同で新たに「水府美術展」と名を改め 4 月、10 月の年 2 回開催を予定しております。

* 平成 19 年度計画 5 月中旬「横浜三溪園」、9 月 23 日 愛馬の日 世田谷「馬事公苑」での撮影会を計画しております。秋には埼玉支部研修旅行に参加する予定です。詳細案内は東京支部ホームページに掲載致します。皆様の入会をお待ちしております。特にデジタルカメラに興味のある方の参加をお願いします。

お問い合わせ先 小林 渡 E-mail : koba-wt@nifty.com TEL : 045-363-0785



新年会参加者写真

(敬称略) 左から

玉川 信二 (28 学電)

山崎慎一郎 (31 学原)

田崎 耕八 (32 学電)

鈴木日出男 (30 学原)

三本木 武 (30 学金)

高橋 伸二 (41 学機)

小林 渡 (38 学電)

山遊会 会長 小宅 仁 (昭36学電)

18年度は会員の意気が揚がり6回の山行となったこと、また高齢の藤田さんも加わり深みのある山行が多くなってきたことが特筆事項となりました。

1. 第11回 陣馬山花見登山

実施日 2006年4月8日(土)日帰り
企画及びリーダー：山口良治(昭44学精)
参加者：8名

藤野駅から落合地区にある登山口までは、約2キロの一般舗装道路であるが沿道を包む里山は、まさに色とりどりの花々に飾られ、十二単で着飾った高貴な女御の集いのような絢爛豪華さでした。

頂上に着いた頃には少し雨粒も大きくなりましたが、全員陣馬山頂上の標柱(857m)にタッチし(11:30)山小屋に駆け込み、本降りからは辛うじて免れ、清水小屋に無事到着となりました。山野草や山桜、アセビ(馬酔木)などを愛でながら下山。与瀬神社に辿り着き(15:00)無事下山できましたことの感謝の拝礼をし、幾ばくかのお賽銭を捧げて、次回の神頼みを祈念し安堵。

2. 第12回 大菩薩嶺—大菩薩峠縦走

実施日 2006年6月4日(日)日帰り
企画及びリーダー：田崎 耕八(昭32学電)
参加者：11名 (100名山の一つ)

快晴とは行かなかったが、柳沢峠登山口1,447mを9時50分に出発。緩やかな上り坂、ハイキング程度の道のりを進み順調に六本木峠、天庭峠1,637m(11:20)を抜け一路丸川峠へと向かう。ここから大菩薩嶺まで一気に急傾斜を登り、大菩薩嶺2,057m(13:25~13:30)にたどり着く。

雷岩2,017m(13:35)にて昼食をとり、ビールで喉を潤し余り休む暇なく、視界の開けた尾根づたいの道を進むと中里介山の大菩薩峠1,917m(14:50)についた。小説の感傷に耽る余裕も無い。あとは石丸峠を経て石丸峠登山口1,592mまで一気に下山。そこで車中の人となり、天目山温泉(16:30)へ到着。

3. 第13回 会津駒ヶ岳(2,133m)フラワー登山

実施日 2006年7月29日(土)&30日(日)
企画及びリーダー：田崎 耕八(昭32学電)
参加者：8名 (100名山の一つ)

総勢8名で、東武、野岩鉄道、会津バスと乗り継いで、檜枝岐の民宿清水屋に無事到着。早速燵の湯で汗を流した。湯上がりに檜枝岐歌舞伎舞台、六地藏などをブラブラと見物した。夕飯は5時30分と早く、名物の裁ちそば、イワナ、山菜と盛りだくさんだった。9時半頃には就寝。

夏山の雷を避けるため予定通り4時30分に出発。樹林帯の中の急な坂道をジグザクに登ってゆく。水場で朝食をとり力を付けたところで、多少緩やかになった登りに加え日も照りだした。駒の池手前から展望も開け、雪渓、木道が見えてきた。残雪の上を吹いてくる

風がとても心地よく、また足下には、ハクサンコザクラ、チングルマ、イワカガミなどの高山植物の可憐な姿が見られた。駒の小屋で少休止の後、雪渓を過ぎるとほどなく駒ヶ岳山頂(2,133m)に到着。中門岳へ向かうが残雪が多く期待の花が開花しておらず、止む無く途中から引き返した。登山高度の中間点になる水場まで下山しやっと昼食となった。残り600mの高度を慎重に下山した。

4. 第14回 磐梯山と安達太良山登山

実施日 2006年10月6日(金)&7日(土)
企画及びリーダー：田崎 耕八(昭32学電)
参加者：9名 (2山とも100名山)

折悪しく台風の影響で暴風雨の中での強行軍となりました。初日安達太良山にゴンドラを利用して楽々登る計画でしたがゴンドラが強風で運行中止のため、磐梯山に初日に登ることになった。

磐梯山 猫魔八方台登山口(11時45分)から登山開始。風雨ともそれほど強くない感じでしたが、高度を上げていくと、風が強く、特に風の通り道のエリアの通過は十分な注意が必要となった。磐梯山頂上(1,819m)の風は強く、記念写真もそこそこにして下山。弘法清水からの下山は余裕もでき、紅葉の山肌をカメラに収めながらの楽しい歩程となった。夕刻まで時間もあり五色沼の入り口付近の散策も楽しむことができた。

安達太良山 安達太良らくらく登山計画はゴンドラが動かず、奥岳温泉から750mの高度差を登ることになった。当初は、薬師岳(1,130m)から安達太良山山頂(1,700m)の430mのみの登山高度差であったので、厳しい登山となった。頂上の狭い鎖場を強風を気をつけながらも制覇し一安心。登りは寒さと、汗とに苦しんだが、下山は最高の紅葉風景を十分に楽しむ事ができた。

5. 第15回 奥多摩むかしみち紅葉狩りハイキング

実施日 2006年11月23日(木・祝日)日帰り
企画及びリーダー：山口 良治(昭44学精)
参加者：10名



写真：全歩程踏破し奥多摩湖畔にて参加者全員集合
左から、小林、佐竹、山口、藤田、矢野、小宅、新沼、菅谷、林、田崎 (敬称略)

「奥多摩の旧甲州街道のむかしみちを、紅葉の季節にゆっくりした歩程で愉し (次頁中段★印へつづく)

快舞会 幹事 瀬在 城雄(昭31学原)

まだ出来たてのほやほや同好会ですが、平成18年度は3回の会合を催しました。

第1回 平成18年8月27日(日)

杉並区久我山会館 4名

参加者：佐藤 久弥(昭30学機) 夫妻
瀬在 城雄(昭31学原) 夫妻

第2回 平成18年12月19日(火)

所沢松井公民館 3名

参加者：佐藤 久弥(昭30学機) 夫妻
瀬在 城雄(昭31学原)

第3回 平成19年1月8日(月)

武蔵境スイングホール 3名

参加者：第2回と同じ

会員総会 平成19年5月17日(木)

出席者：上記2名の他 柳沢 裕(昭28学原)、

成井 浩(昭30学原)

欠席者：明石 和夫(昭22専金)

決定事項：

- ①会長：柳沢 裕(昭28学原)。
- ②会の名称：快舞会と称する。
- ③年4回ダンスパーティを行う。
- ④会場は各会員が所属する会が主催するパーティの他、一般のダンスパーティ会場やダンスホール。
- ⑤夫婦でしている会員は出来るだけ同伴参加するものとし、年1回ダンス旅行をする。



写真は H19-5-17 会員総会出席者(敬称略)
左から 佐藤、柳沢、瀬在、成井

★(前頁からつづく 山遊会)

みましよう。」という目的で実施しました。当山遊会では最年長となる藤田勲(昭19専原)さんが初参加されました。

奥多摩駅から少し離れた登山口を出発しましたが、この道は旧青梅街道で氷川(ひかわ)村から小河内(おごうち)村を結ぶ生活道路の匂いを残していました。道中や地域の守り神様などがあちこちに点在し、紅葉は例年に無く遅れたこともあって、イロハ楓を筆頭に紅葉の見所が沢山あり満喫しました。昼食は2時間半くらい歩いた西久保見晴広場で摂りましたが、往時の旅の方たちの気分を少しばかり感じたひと時でした。昼食後は中山集落を通過して小河内ダムを左手に見ながら、山道を歩き水根キャンプ場を通過して奥多摩湖畔の水と緑のふれあい館に到着して全歩程踏破となりました。

編集後記

* 今回10号発行する事が出来ました。これも会員に皆様方の協力と編集担当者の努力の賜物です。今後共宜しく願ひ致します。(鈴木)

* 6月16日(土)開催された多賀工業会総会で決まった主な内容。寺門会長は留任し、新設の幹事長(旧理事長)に小林正典氏(昭45学電)が選任され、近江支部長は副会長となりました。平成21年に迎える本会創立70周年記念事業として多賀工業会館の増改築が決まり、年内に着工し20年3月頃完成の予定。費用は大学側が4千万、本会が1千万円計上したとの報告がありました。各支部への援助費を年度毎に漸次減額する件で各理事から色々意見があったが、当初予定の5%が3%減となり、19年度から平成28年まで10年間3%ずつ減額することになりました。従って当支部への援助費は本年は25万円の3%減242,500で、10年後は185,300円となるので、今後は十分財源の考慮が必要でしょう。(三本木)

* 今、年金問題で明け暮れています。公務員は国民の奉仕者としての使命感を失わなければ、こんな大混乱は起こらなかったのこの思いです。この会報も10号として発行できることになりました。これからも継続されて皆さんに愛読さ

6. 第16回 大野山ハイキング

実施日 2007年2月17日(土) 日帰り

企画及びリーダー：桜井 衛(昭38学機)

参加者：12名

10時35分に大野山ハイキングコース登山口を出発。雑木林の道から檜混じりの杉林を通過し、前方に牧場が見えてくると最後の急勾配の階段になる。ここを登り終えると舗装した車道に出て頂上(723m)に12時30分到着となりました。頂上は、ほぼ180度の展望ですが、残念ながら富士山は瞬間的に頂上が見えただけで、あとは雲の中でした。しかし丹沢湖を始め、丹沢、箱根の山々の展望は楽しむことが出来ました。今回も最高齢の藤田勲(昭19専原)さんが参加され500m超の登山高度を2時間弱で登りきりました。

れますようにとの思いを込め、努力しております。(山崎)

* 早いもので支部会報のお手伝い始めてから10号で丸5年となりました。先輩の築いた業績を踏襲し更に若い方に魅力のある企画はないものかと苦しみました。特集「その歩みを振り返ってみる」の中でふれている様に「活躍人訪問」を企画、現役で会社や社会で活躍している方に直接インタビューし、生の声を活字にしました。初回の広瀬勇二氏(昭40学電)に昨年の総会で講演して頂き、鳥居塚卓氏(昭54学精)の随筆「東京支部総会参加の魅力」に結びつきました。今後も皆様の期待に応えられるような企画を心がけたいと思います。皆様、案がありましたら編集室にご連絡下さい。(小林)

* 異常気象が話題となり、人類としての取り組みが必要とされていますが、各国の利害が対立しているようです。地球から見れば単なる気象変化サイクルと見る考えもあるようですが。会報はA4版と活字が大きくなり、会員間のコミュニケーションがより活発になることを期待しています。(菅谷)

* 古老から色々な話を聞き取って書き残している話題が時折報道されますが、特集「会報第10号! その歩みを振り返ってみる」も同じような試みです。書き残したいものは何か。これという話があれば編集室にご連絡下さい。(兼子)

「東京支部会則」

(平成16年10月23日改正)

第1章 総則

- 第1条 本会は、多賀工業会東京支部と称し、その支部事務所を支部長宅に置く。
- 第2条 本会は、会員相互の親睦を図り、合わせて母校の隆昌に寄与することを目的とする。

第2章 事業

- 第3条 本会は、第2条の目的を達成するため次の事業を行う。
- (1) 会報の発行
 - (2) 会員名簿の整備・管理
 - (3) 会員相互の連絡及び共励共助
 - (4) 会員と母校との連絡
 - (5) 発展向上のための講演会、研修会
 - (6) 同好会活動
 - (7) その他目標達成のため必要と認める事項

第3章 会員

- 第4条 本会の会員は、多賀工業会の会員で東京・神奈川及び近隣に在住・在勤している者、並びに支部長が特別に承認した者とする。

第4章 役員

- 第5条 本会は次の役員を置く。
- | | |
|---------------------|-----|
| 支部長 | 1名 |
| 副支部長 | 若干名 |
| 幹事長 | 1名 |
| 幹事 | 若干名 |
| 会計幹事 | 1名 |
| 監事 | 2名 |
| その他(同好会幹事、相談役、顧問など) | 若干名 |

- 第6条 役員は、次の方法によって定める。
- 支部長は、幹事会の互選とし総会での承認を得るものとする。
- 支部長以外は、支部長が推薦し、現幹事会の決議を得るものとする。

- 第7条 役員職務は、次の通りである。
- | | |
|-------|-------------------------------|
| 支部長 | 本会を代表し、会の運営・会務執行の責めに任ずる。 |
| 副支部長 | 支部長を補佐し、支部長が職務不能な時はその責務を代行する。 |
| 幹事長 | 幹事の業務を統括する。 |
| 幹事 | 会の運営業務を夫々分担して遂行する。 |
| 会計幹事 | 本会の収支、及び会計を担当する。 |
| 監事 | 会計を監査し総会で報告する。 |
| 同好会幹事 | 同好会毎に部長、副部長等を定め、自主的に運営する。 |
| 相談役 | 支部長の相談に応ずる。 |
| 顧問 | 支部長・幹事会の諮問に応ずる。 |
- 第8条 役員任期は2年とし、重任を妨げない。

第5章 会議

- 第9条 支部総会は、原則として毎年10月に開催する。但し、必要に応じ臨時支部総会を開くことができる。
- 第10条 支部総会は、次の事項について審議し、出席者の過半数の賛成で決議する。
- (1) 支部長人事
 - (2) 会則の改廃
 - (3) 本会の年度決算並びに次年度予算
 - (4) 本会の年度事業報告並びに次年度計画
 - (5) 幹事会からの提出議案
 - (6) その他本会の目的を達成するために必要な事項
- 第11条 幹事会は、幹事をもって構成し原則として年4回(2、5、8、11月の第4土曜日)開催する。但し、必要に応じ支部長又は幹事長が臨時に召集し開催できる。
- 第12条 幹事会は、次の事項について審議し、出席者の3分の2以上の賛成で決議事項とする。
- (1) 支部長の互選及びその他役員の決定
 - (2) 会則の改廃案
 - (3) 本会の年度決算案並びに次年度予算案
 - (4) 本会の年度事業報告案並びに次年度計画案
 - (5) 総会への提出議案
 - (6) 細則規定の改廃
 - (7) その他会務運営上必要な事項

第6章 会計

- 第13条 本会の経費は、会員の年会費、寄付金及び本部補助金をもってあてる。
- 第14条 現金の保管は銀行預金の方法による。
- 第15条 本会の会計年度は、4月1日から翌年の3月31日までとする。
- 第16条 本会の収支は、会計幹事が担当し、監事が会計監査を行い総会に報告する。

付則 本会則は、平成16年10月23日より施行する。
細則規定

- 第1条 年会費は、2,000円とし、会計年度内に徴収する。複数年度分の先行納入は拒まない。但し、一旦納入の年会費は返還しない。
- 第2条 会報は次の者に配布する。
- (1) 年会費納入者(但し、5年連続未納者には6回目に通知し以降配布を停止する)
 - (2) 支部総会参加者
 - (3) 東京・神奈川に在住・在勤の直近3年間の卒業生
 - (4) 配布希望者で支部長が許可した者
 - (5) その他多賀工業会本部及び支部等の関係者
- 第3条 総会開催の案内は、会報にて発表するとともに書面で通知する。書面による通知は、第2条の対象者以外にも広げて発送する。
- 第4条 慶弔規定は別途定める。
- 第5条 本細則の改廃は、幹事会にて行う。
- 本細則は、平成16年10月23日より施行する。

鋳金設計から電気部品、機械加工品を含む調達
鋳金製作・組み立て配線・調整までの総合アセンブリー
ISO9001:2000取得

木村電子工業株式会社

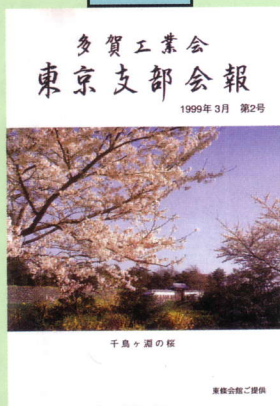
取締役社長 下ノ村 勇 (学精42年卒)

〒196-0021 東京都昭島市武蔵野2-7-7
TEL 042-544-3211 FAX 042-545-5441
Email:shimonomura@kimura-ei.co.jp URL http://www.kimura-ei.co.jp

創刊号



第2号



第3号

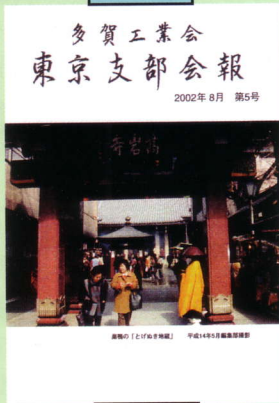


祝第10号

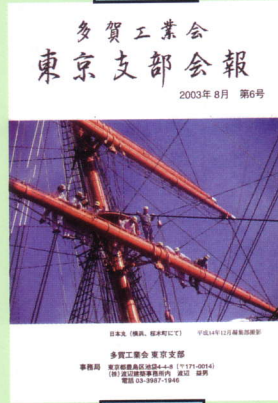
第4号



第5号



第6号



覚えていますか
既刊会報表紙

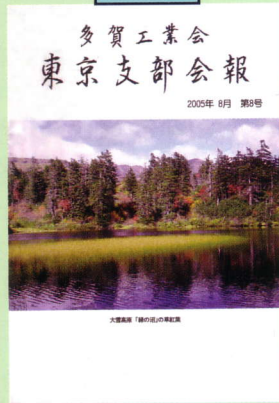
編集担当委員

鈴木 日出男 (昭30学原)
三本木 武 (昭30学金)
山崎 慎一郎 (昭31学原)
兼子 八郎 (昭38学電)
小林 渡 (昭38学電)
菅谷 禎男 (昭42学機)

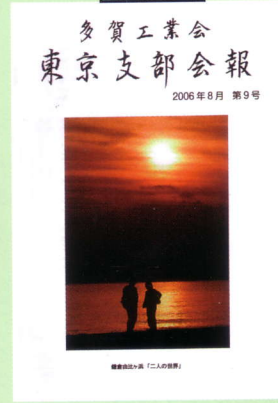
第7号



第8号



第9号



東京支部会報 [第10号]

発行 平成19年8月25日

発行者 支部長

近江 義勝

〒113-0032 東京都文京区
弥生2-8-6

TEL & FAX 03-3811-7088